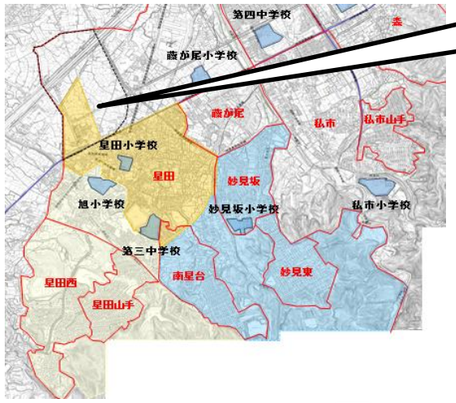
第三中学校区の適正配置案

第三中学校区の適正配置案（1）

◆　星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 星田小学校区（1）

現況校区図　　（学校数 4）



星田北7丁目（黒破線内黄色の区域）では、162戸程度の住宅開発が予定されている。

星田北7丁目の住宅開発の影響で、適正規模で推移する見込み

～第三中学校区の課題～

星田小学校

~~将来的に小規模化する見込みである。~~

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

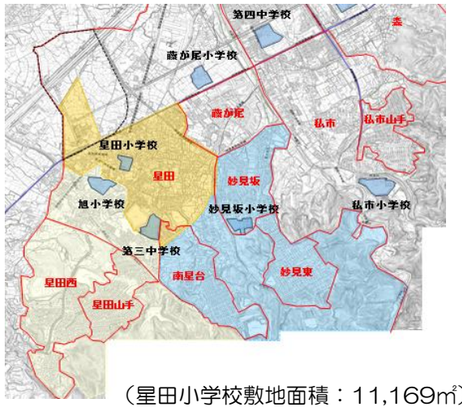
旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。

星田小学校の建て替え、または、改修をした場合

（学校数 4）



（星田小学校敷地面積：11,169㎡）

メリット

・将来的な星田小学校の小規模化が解消される。

デメリット

・星田小学校は敷地面積が11,169㎡
　屋外運動場面積が7,152㎡と小さい。

・星田小学校の増床が必要となる見込み。

【 確認事項 】

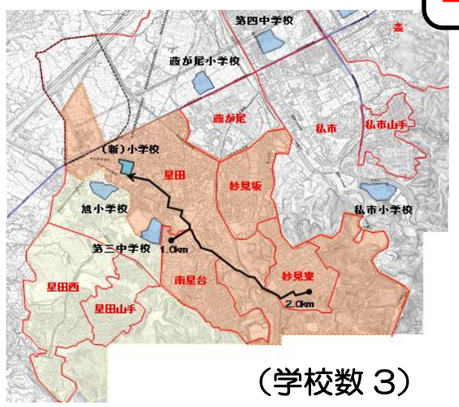
星田北7丁目の住宅開発の影響により、星田小学校の小規模化という課題は解消される見込みであるが、施設的には受け入れが困難なため、増床が必要と見込まれるが、敷地面積が小さいため新たな棟の設置は難しく、築後57年経過という学校施設の老朽化の課題も加味すると、施設の建て替えが考えられる。

【 課題 】

・妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。
・旭小学校は将来的に小規模化する見込みである。

学校統合案（1）

星小・妙小を統合し、星小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（星田小学校敷地面積：11,169㎡）

メリット

・将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。

デメリット

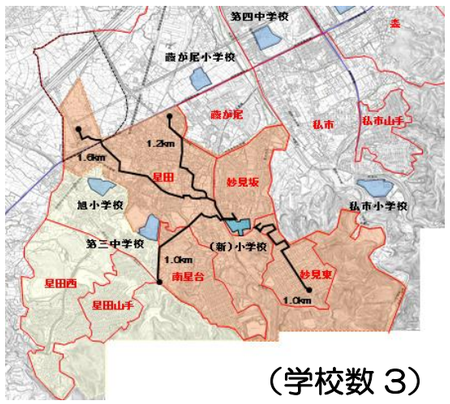
・星田小学校敷地は敷地面積が小さい。

・通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）

・将来的に旭小学校が小規模化する見込みである。

学校統合案（2）

星小・妙小を統合し、妙小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（妙見坂小学校敷地面積：25,271㎡
うち、3,341㎡は実験実習地）

メリット

・将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。

・妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

デメリット

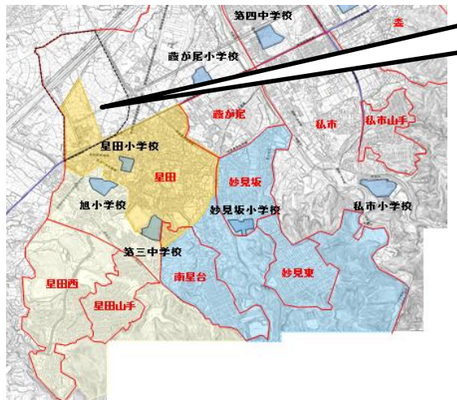
・通学距離が延びる地域がある。（最長約1.6km）
（星田5丁目や星田北7丁目などの地域では、すぐ近くにある旭小学校を通過しての通学になる。）

・将来的に旭小学校が小規模化する見込みである。

第三中学校区の適正配置案（2）

◆　星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 星田小学校区（2）

現況校区図　　（学校数 4）



星田北7丁目（黒破線内黄色の区域）では、162戸程度の住宅開発が予定されている。

星田北7丁目の住宅開発の影響で、適正規模で推移する見込み

～第三中学校区の課題～

星田小学校

~~将来的に小規模化する見込みである。~~

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

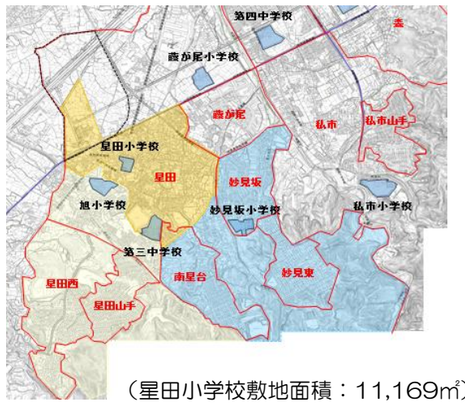
旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。

星田小学校の建て替え、または、改修をした場合

（学校数 4）



（星田小学校敷地面積：11,169㎡）

メリット

・将来的な星田小学校の小規模化が解消される。

デメリット

・星田小学校は敷地面積が11,169㎡
　屋外運動場面積が7,152㎡と狭い。

・星田小学校の増床が必要となる見込みである。

【 確認事項 】

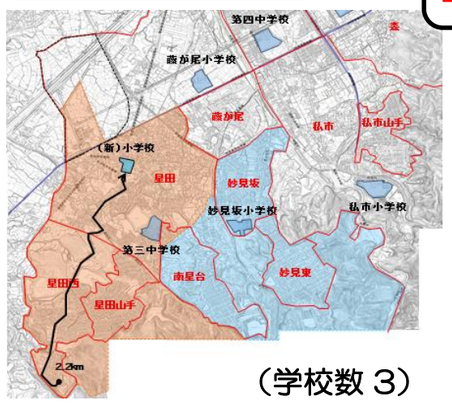
星田北7丁目の住宅開発の影響により、星田小学校の小規模化という課題は解消される見込みであるが、施設的には受け入れが困難なため、増床が必要と見込まれるが、敷地面積が小さいため新たな棟の設置は難しく、築後57年経過という学校施設の老朽化の課題も加味すると、施設の建て替えが考えられる。

【 課題 】

・妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。
・旭小学校は将来的に小規模化する見込みである。

学校統合案（3）

星小・旭小を統合し、星小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（星田小学校敷地面積：11,169㎡）

メリット

・将来的な旭小学校の小規模化が解消される。

・学校間の距離が近接しているため、通学距離が大きく延びる地域がない。（最長約2.2km）

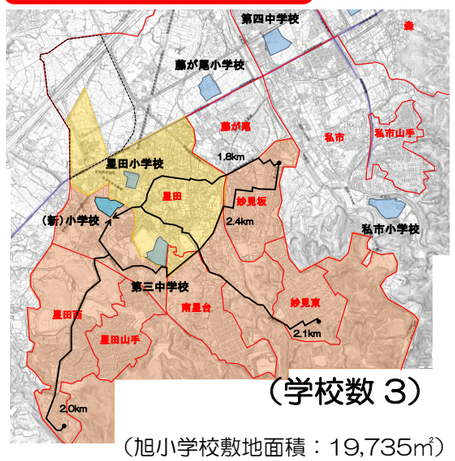
デメリット

・星田小学校敷地は敷地面積が小さい。

・将来的に妙見坂小学校が小規模化する見込みである。

学校統合案（4）

星小・旭小を統合し、旭小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（旭小学校敷地面積：19,735㎡）

メリット

・将来的な旭小学校の小規模化が解消される。

・学校間の距離が近接しているため、通学距離が大きく延びる地区がない。（最長約2.0km）

・旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地（1,322㎡）を活用することで敷地面積が大きくなる。

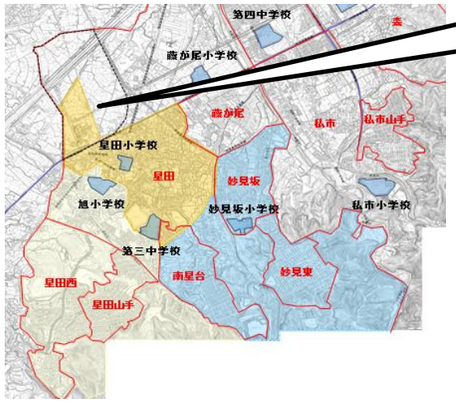
デメリット

・将来的に妙見坂小学校が小規模化する見込みである。

第三中学校区の適正配置案（3）

◆　星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 星田小学校区（3）

現況校区図　　（学校数 4）



星田北7丁目（黒破線内黄色の区域）では、162戸程度の住宅開発が予定されている。

星田北7丁目の住宅開発の影響で、適正規模で推移する見込み

～第三中学校区の課題～

星田小学校

~~将来的に小規模化する見込みである。~~

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

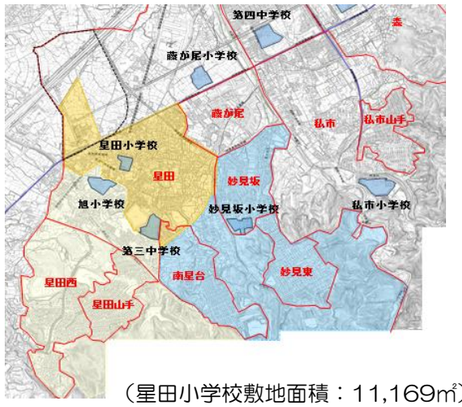
旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。

星田小学校の建て替え、または、改修をした場合

（学校数 4）



（星田小学校敷地面積：11,169㎡）

メリット

・将来的な星田小学校の小規模化が解消される。

デメリット

・星田小学校は敷地面積が11,169㎡
　屋外運動場面積が7,152㎡と狭い。

・星田小学校の増床が必要となる見込みである。

【 確認事項 】

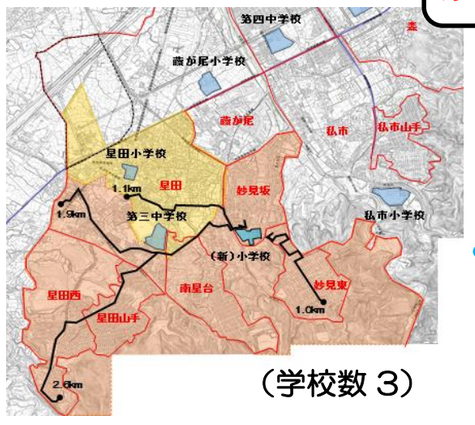
星田北7丁目の住宅開発の影響により、星田小学校の小規模化という課題は解消される見込みであるが、施設的には受け入れが困難なため、増床が必要と見込まれるが、敷地面積が小さいため新たな棟の設置は難しく、築後57年経過という学校施設の老朽化の課題も加味すると、施設の建て替えが考えられる。

【 課題 】

・妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。
・旭小学校は将来的に小規模化する見込みである。

学校統合案(5)

妙小・旭小を統合し、妙小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（妙見坂小学校敷地面積：25,271㎡
うち、3,341㎡は実験実習地）

メリット

・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。
（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）

・妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

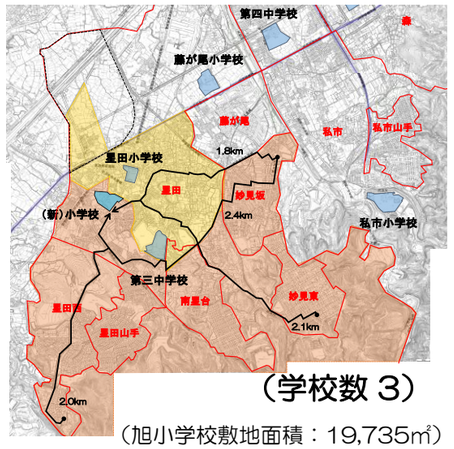
デメリット

・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.6km）
（星田4丁目や星田6丁目などの地域では、すぐ近くにある星田小学校を通過しての通学となる。）

・他の小学校区をまたいでの、または、迂回しての通学となる地域がある。

学校統合案(6)

妙小・旭小を統合し、旭小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（旭小学校敷地面積：19,735㎡）

メリット

・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。
（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）

・旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地（1,322㎡）を活用することで敷地面積が大きくなる。

デメリット

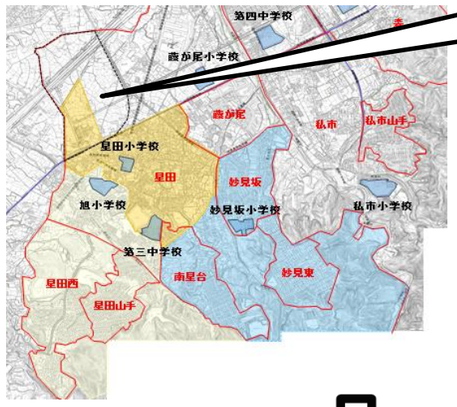
・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.4km）

・他の小学校区をまたいでの、または、迂回しての通学となる地域がある。

第三中学校区の適正配置案（4）

◆　星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 星田小学校区（4）

現況校区図　　（学校数 4）



星田北7丁目（黒破線内黄色の区域）では、162戸程度の住宅開発が予定されている。

星田北7丁目の住宅開発の影響で、適正規模で推移する見込み

～第三中学校区の課題～

星田小学校

~~将来的に小規模化する見込みである。~~

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

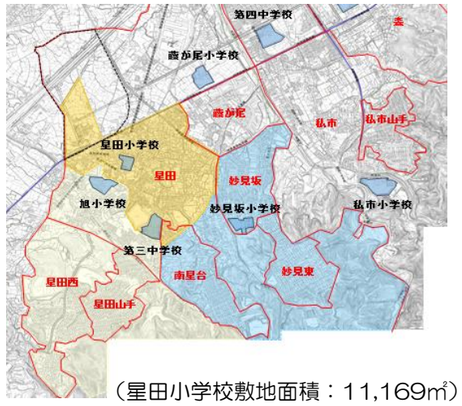
旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。

星田小学校の建て替え、または、改修をした場合

（学校数 4）



（星田小学校敷地面積：11,169㎡）

メリット

・将来的な星田小学校の小規模化が解消される。

デメリット

・星田小学校は敷地面積が11,169㎡
　屋外運動場面積が7,152㎡と狭い。

・星田小学校の増床が必要となる見込みである。

【 確認事項 】

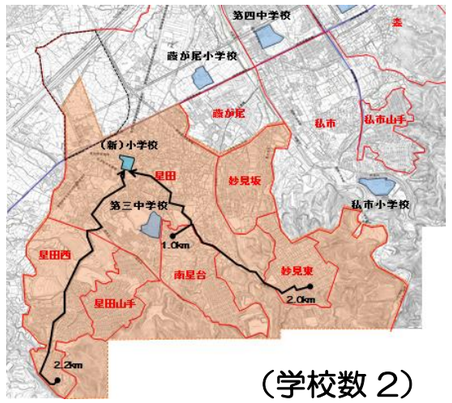
星田北7丁目の住宅開発の影響により、星田小学校の小規模化という課題は解消される見込みであるが、施設的には受け入れが困難なため、増床が必要と見込まれるが、敷地面積が小さいため新たな棟の設置は難しく、築後57年経過という学校施設の老朽化の課題も加味すると、施設の建て替えが考えられる。

【 課題 】

・妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。
・旭小学校は将来的に小規模化する見込みである。

学校統合案（7）

星小・妙小・旭小を統合し、星小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 2）

（星田小学校敷地面積：11,169㎡）

メリット

・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。

デメリット

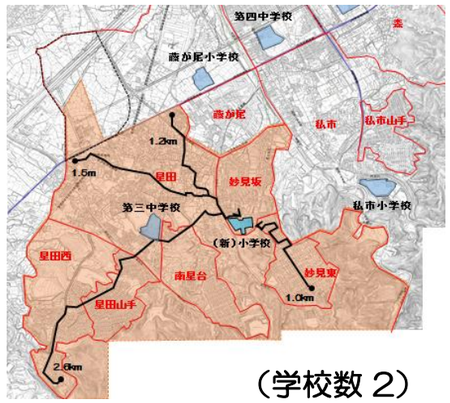
・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.2km）

・（新）小学校で適正規模を上回る見込みである。

・星田小学校敷地は、敷地面積が小さい。

学校統合案（8）

星小・妙小・旭小を統合し、妙小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 2）

（妙見坂小学校敷地面積：25,271㎡
うち、3,341㎡は実験実習地）

メリット

・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。

・妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

デメリット

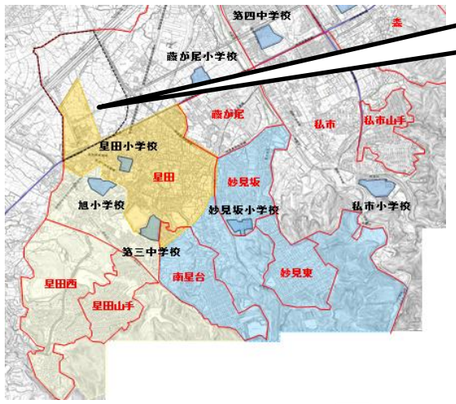
・通学距離が2km程度になる地域がある。（最長約2.6km）

・（新）小学校で適正規模を上回る見込みである。

第三中学校区の適正配置案（5）

◆　星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 星田小学校区（5）

現況校区図　　（学校数 4）



星田北7丁目（黒破線内黄色の区域）では、162戸程度の住宅開発が予定されている。

星田北7丁目の住宅開発の影響で、適正規模で推移する見込み

～第三中学校区の課題～

星田小学校

~~将来的に小規模化する見込みである。~~

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

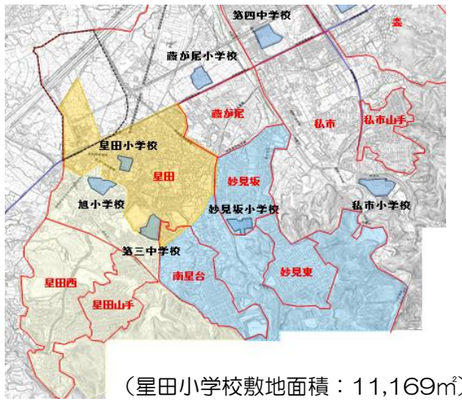
旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。

星田小学校の建て替え、または、改修をした場合

（学校数 4）



（星田小学校敷地面積：11,169㎡）

メリット

・将来的な星田小学校の小規模化が解消される。

デメリット

・星田小学校は敷地面積が11,169㎡
　屋外運動場面積が7,152㎡と狭い。

・星田小学校の増床が必要となる見込みである。

【 確認事項 】

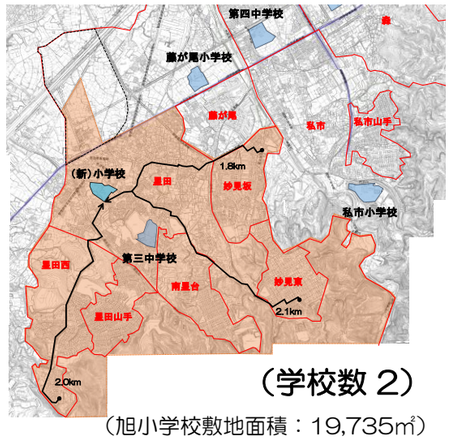
星田北7丁目の住宅開発の影響により、星田小学校の小規模化という課題は解消される見込みであるが、施設的には受け入れが困難なため、増床が必要と見込まれるが、敷地面積が小さいため新たな棟の設置は難しく、築後57年経過という学校施設の老朽化の課題も加味すると、施設の建て替えが考えられる。

【 課題 】

・妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。
・旭小学校は将来的に小規模化する見込みである。

学校統合案（9）

星小・妙小・旭小を統合し、
旭小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 2）

（旭小学校敷地面積：19,735㎡）

メリット

・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。

・旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地（1,322㎡）を活用することで敷地面積が大きくなる。

デメリット

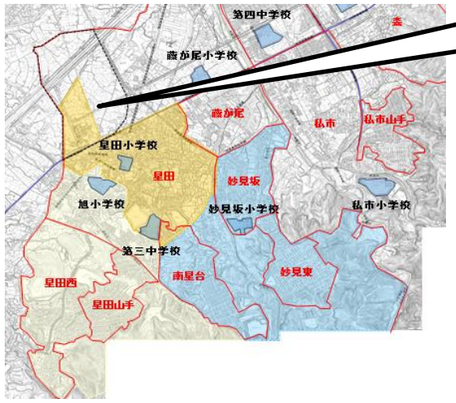
・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.1km）

・（新）小学校で適正規模を上回る見込みである。

第三中学校区の適正配置案（6）

◆　星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 星田小学校区（6）

現況校区図　　（学校数 4）



星田北7丁目（黒破線内黄色の区域）では、162戸程度の住宅開発が予定されている。

星田北7丁目の住宅開発の影響で、適正規模で推移する見込み

～第三中学校区の課題～

星田小学校

~~将来的に小規模化する見込みである。~~

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

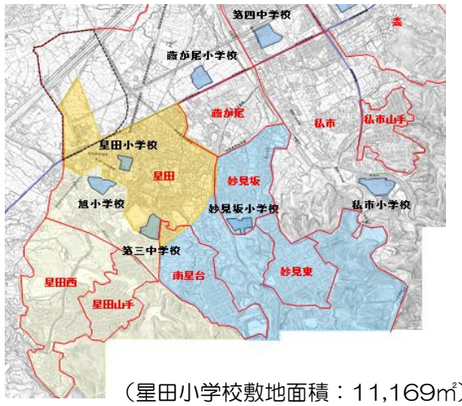
旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。

星田小学校の建て替え、または、改修をした場合

（学校数 4）



（星田小学校敷地面積：11,169㎡）

メリット

・将来的な星田小学校の小規模化が解消される。

デメリット

・星田小学校は敷地面積が11,169㎡
屋外運動場面積が7,152㎡と狭い。

・星田小学校の増床が必要となる見込みである。

【 確認事項 】

星田北7丁目の住宅開発の影響により、星田小学校の小規模化という課題は解消される見込みであるが、施設的には受け入れが困難なため、増床が必要と見込まれるが、敷地面積が小さいため新たな棟の設置は難しく、築後57年経過という学校施設の老朽化の課題も加味すると、施設の建て替えが考えられる。

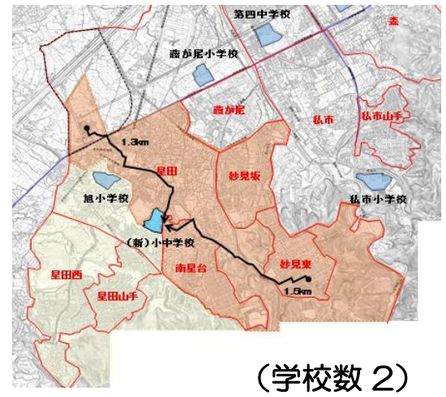
【 課題 】

・妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。
・旭小学校は将来的に小規模化する見込みである。

星小・妙小・三中を統合し、三中敷地に新しい小中学校を設置した場合

妙小・旭小・三中を統合し、三中敷地に新しい小中学校を設置した場合

小中学校統合案（1）



（学校数 2）

（第三中学校敷地面積：23,095㎡）

メリット

・将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。

・第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

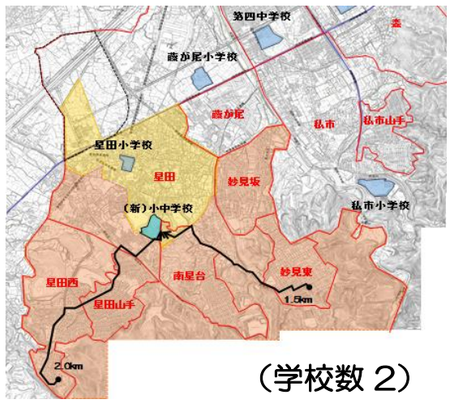
デメリット

・通学距離が延びる地域がある。（最長約1.5km）

・将来的に旭小学校が小規模化する見込みである。

・小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に教育機会等の不均等が生じるおそれがある。

小中学校統合案（2）



（学校数 2）

（第三中学校敷地面積：23,095㎡）

メリット

・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。
（（新）中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）

・第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

デメリット

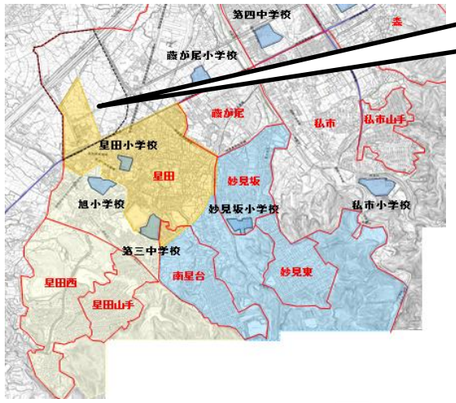
・通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）

・小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に教育機会等の不均等が生じるおそれがある。

第三中学校区の適正配置案（7）

◆　星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 星田小学校区（7）

現況校区図　　（学校数 4）



星田北7丁目（黒破線内黄色の区域）では、162戸程度の住宅開発が予定されている。

星田北7丁目の住宅開発の影響で、適正規模で推移する見込み

～第三中学校区の課題～

星田小学校

~~将来的に小規模化する見込みである。~~

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

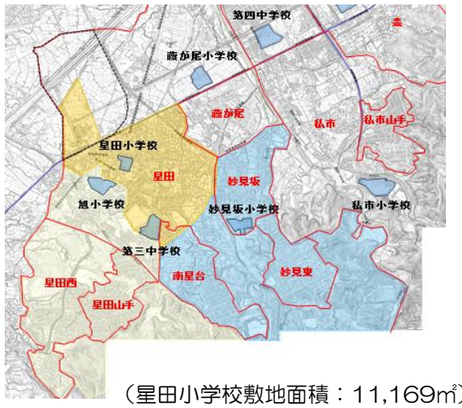
旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。

星田小学校の建て替え、または、改修をした場合

（学校数 4）



（星田小学校敷地面積：11,169㎡）

メリット

・将来的な星田小学校の小規模化が解消される。

デメリット

・星田小学校は敷地面積が11,169㎡
　屋外運動場面積が7,152㎡と狭い。

・星田小学校の増床が必要となる見込みである。

【 確認事項 】

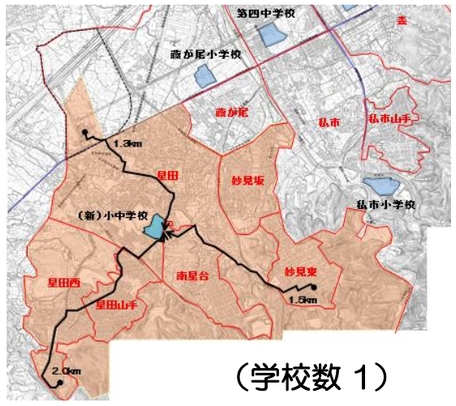
星田北7丁目の住宅開発の影響により、星田小学校の小規模化という課題は解消される見込みであるが、施設的には受け入れが困難なため、増床が必要と見込まれるが、敷地面積が小さいため新たな棟の設置は難しく、築後57年経過という学校施設の老朽化の課題も加味すると、施設の建て替えが考えられる。

【 課題 】

・妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。
・旭小学校は将来的に小規模化する見込みである。

星小・妙小・旭小・三中を統合し、三中敷地に新しい小中学校を設置した場合

小中学校統合案(3)



（学校数 1）

（第三中学校敷地面積：23,095㎡）

メリット

・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。

・第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

・小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。

デメリット

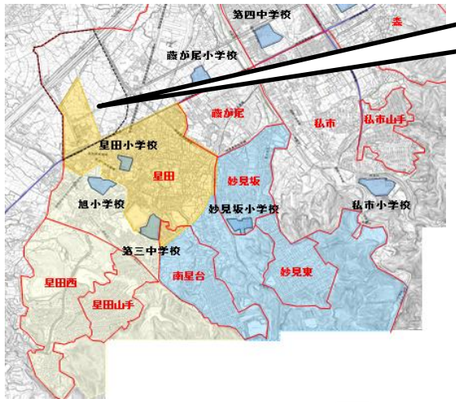
・（新）小学校で適正規模を上回る見込みである。

・通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）

第三中学校区の適正配置案（8）

◆　星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 旭小学校区（1）

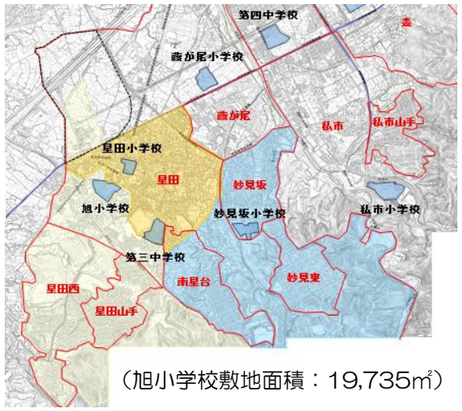
現況校区図　　（学校数 4）



星田北7丁目（黒破線内黄色の区域）では、162戸程度の住宅開発が予定されている。

星田北7丁目は旭小学校区とし、旭小学校の増床工事を実施

（学校数 4）



（旭小学校敷地面積：19,735㎡）

メリット

- 旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地（1,322㎡）を活用することで敷地面積が大きくなる。
- 推計上最大の約700人規模となるような増床は可能である。

デメリット

- 星田北7丁目から旭小学校へは、星田小学校区をまたいでの通学となる。
- 星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

～第三中学校区の課題～

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

旭小学校

~~将来的に小規模化する見込みである。~~

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。

【 確認事項 】

星田北7丁目の住宅開発の影響により、将来的な（推計上令和17年度まで）旭小学校の小規模化の懸念は解消されるが、施設的には受け入れが困難なため、将来的に増床が必要と見込まれる。

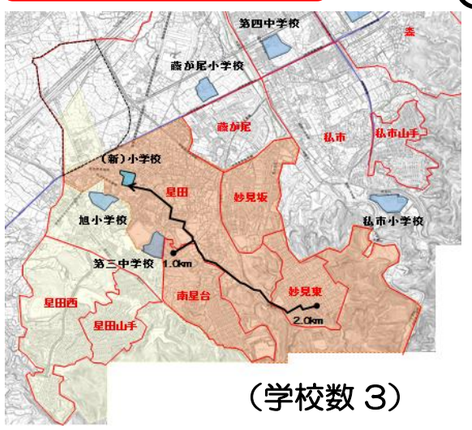
【 課題 】

- 星田小学校は将来的に小規模化する見込みである。
- 妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。

※星田小学校施設は建築後57年経過している棟があるなど、老朽化が進んでいる。

学校統合案（10）

星小・妙小を統合し、星小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（星田小学校敷地面積：11,169㎡）

メリット

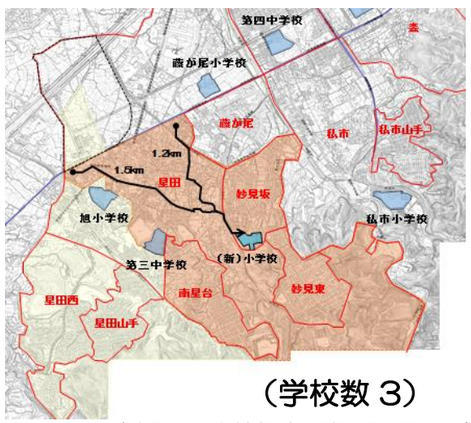
- 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）

デメリット

- 星田小学校敷地は敷地面積が小さい。
- 通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）
- 他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。

学校統合案（11）

星小・妙小を統合し、妙小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（妙見坂小学校敷地面積：25,271㎡
うち、3,341㎡は実験実習地）

メリット

- 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）
- 妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

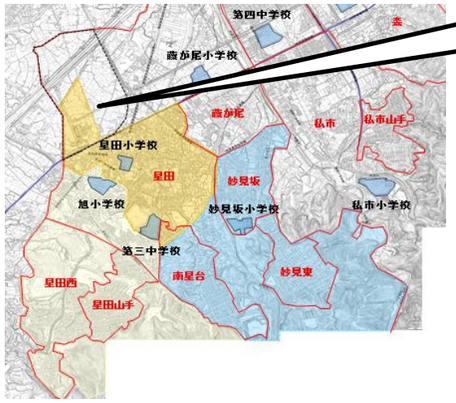
デメリット

- 通学距離が延びる地域がある。（最長約1.5km）（星田5丁目などの地域では、すぐ近くにある旭小学校を通過しての通学になる。）
- 他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。

第三中学校区の適正配置案（9）

◆　星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 旭小学校区（2）

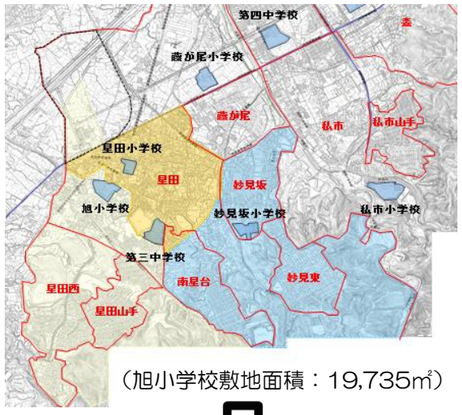
現況校区図　　（学校数 4）



星田北7丁目（黒破線内黄色の区域）では、162戸程度の住宅開発が予定されている。

星田北7丁目は旭小学校区とし、旭小学校の増床工事を実施

（学校数 4）



（旭小学校敷地面積：19,735㎡）

メリット

- 旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地（1,322㎡）を活用することで敷地面積が大きくなる。
- 推計上最大の約700人規模となるような増床は可能である。

デメリット

- 星田北7丁目から旭小学校へは、星田小学校区をまたいでの通学となる。
- 星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

～第三中学校区の課題～

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

旭小学校

~~将来的に小規模化する見込みである。~~

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。

【 確認事項 】

星田北7丁目の住宅開発の影響により、将来的な（推計上令和17年度まで）旭小学校の小規模化の懸念は解消されるが、施設的には受け入れが困難なため、将来的に増床が必要と見込まれる。

【 課題 】

- 星田小学校は将来的に小規模化する見込みである。
- 妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。

※星田小学校施設は建築後57年経過している棟があるなど、老朽化が進んでいる。

学校統合案（7）

星小・妙小・旭小を統合し、星小敷地に新しい小学校を設置した場合

メリット

- 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）

デメリット

- 星田小学校敷地は敷地面積が小さい。
- 通学距離が延びる地域がある。（最長約2.2km）
- （新）小学校で適正規模を上回る見込みである。

学校統合案（8）

星小・妙小・旭小を統合し、妙小敷地に新しい中学校を設置した場合

メリット

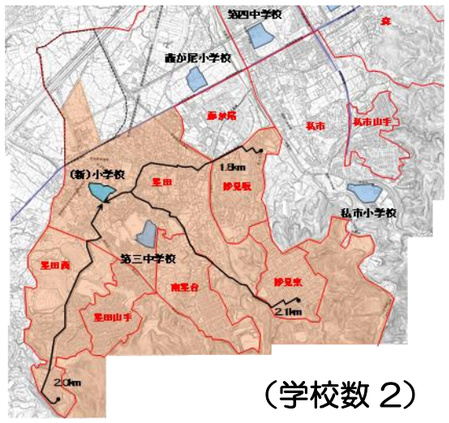
- 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）

デメリット

- 通学距離が延びる地域がある。（最長約2.6km）
- （新）小学校で適正規模を上回る見込みである。

学校統合案（9）

星小・妙小・旭小を統合し、旭小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 2）

（旭小学校敷地面積：19,735㎡）

メリット

- 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）

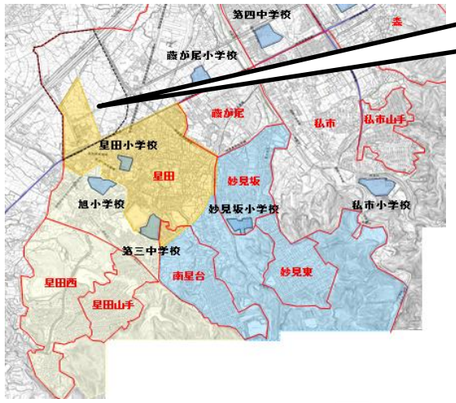
デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.1km）
- （新）小学校で適正規模を上回る見込みである。

第三中学校区の適正配置案（10）

◆　星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 旭小学校区（3）

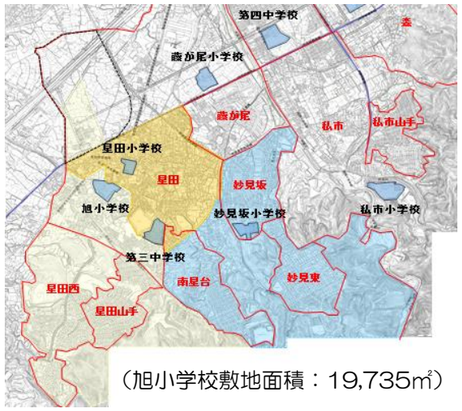
現況校区図　　（学校数 4）



星田北7丁目（黒破線内黄色の区域）では、162戸程度の住宅開発が予定されている。

星田北7丁目は旭小学校区とし、旭小学校の増床工事を実施

（学校数 4）



（旭小学校敷地面積：19,735㎡）

メリット

- 旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地（1,322㎡）を活用することで敷地面積が大きくなる。
- 推計上最大の約700人規模となるような増床は可能である。

デメリット

- 星田北7丁目から旭小学校へは、星田小学校区をまたいでの通学となる。
- 星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

～第三中学校区の課題～

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

旭小学校

~~将来的に小規模化する見込みである。~~

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。

【 確認事項 】

星田北7丁目の住宅開発の影響により、将来的な（推計上令和17年度まで）旭小学校の小規模化の懸念は解消されるが、施設的には受け入れが困難なため、将来的に増床が必要と見込まれる。

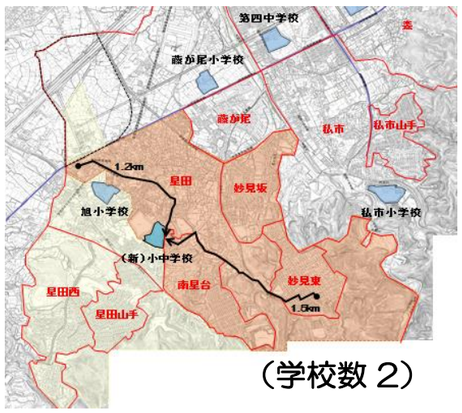
【 課題 】

- 星田小学校は将来的に小規模化する見込みである。
- 妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。

※星田小学校施設は建築後57年経過している棟があるなど、老朽化が進んでいる。

小中学校統合案（4）

星小・妙小・三中を統合し、三中敷地に新しい小中学校を設置した場合



（学校数 2）

（第三中学校敷地面積：23,095㎡）

メリット

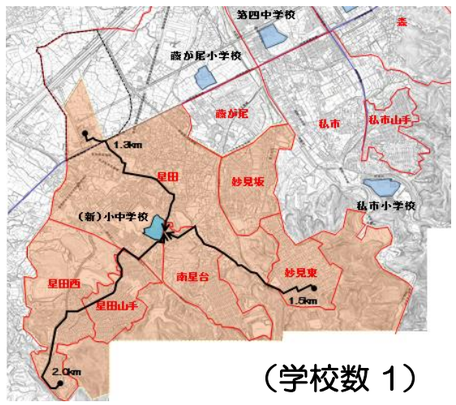
- 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）
- 第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

デメリット

- 通学距離が延びる地域がある。（最長約1.5km））
- 小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に教育機会等の不均等が生じるおそれがある。
- 他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。

小中学校統合案（3）

星小・妙小・旭小・三中を統合し、三中敷地に新しい小中学校を設置した場合



（学校数 1）

（第三中学校敷地面積：23,095㎡）

メリット

- 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）
- 小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。
- 第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

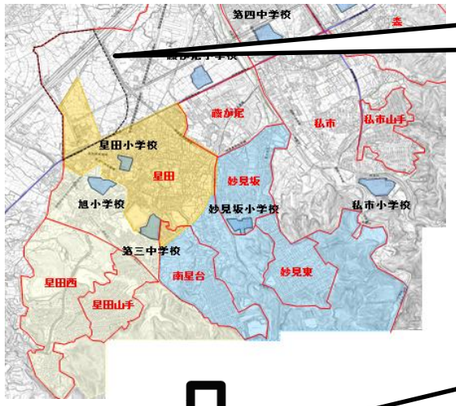
デメリット

- （新）小学校で適正規模を上回る見込みである。
- 通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）

第三中学校区の適正配置案（11）

◆　星田駅北全体⇒ 星田小学校区（1）

現況校区図　　（学校数 4）



星田北全体（黒破線内の区域）では、
689戸程度の住宅開発が予定されている。

星田北7丁目の住宅開発の影響で、適正規模で推移する見込み

～第三中学校区の課題～

星田小学校

~~将来的に小規模化する見込みである。~~

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

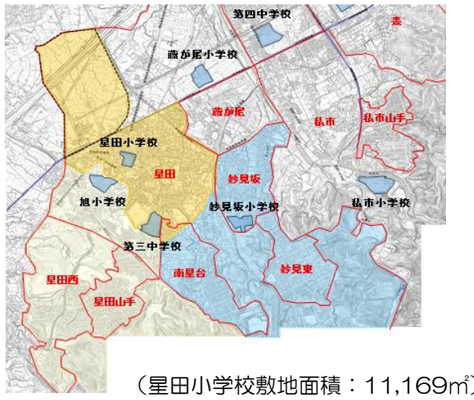
旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。

星田駅北地域は星田小学校区とし、
星田小学校の増床工事を実施

（学校数 4）



（星田小学校敷地面積：11,169㎡）

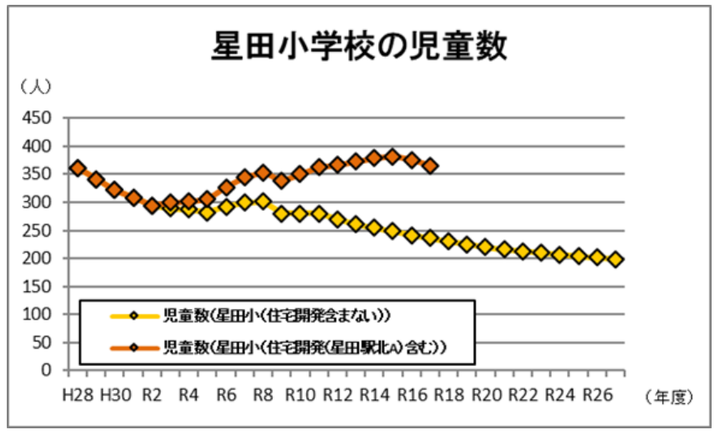
メリット

・将来的な星田小学校の小規模化が解消される。

デメリット

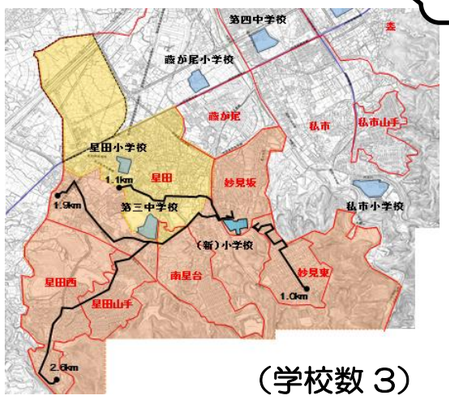
・星田小学校は敷地面積が11,169㎡、屋外運動場面積が7,152㎡と狭い。
推計上最大の約700人規模となるような増床は困難である。

・中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。



学校統合案（12）

妙小・旭小を統合し、
妙小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（妙見坂小学校敷地面積：25,271㎡
うち、3,341㎡は実験実習地）

メリット

・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。
（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）

・妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

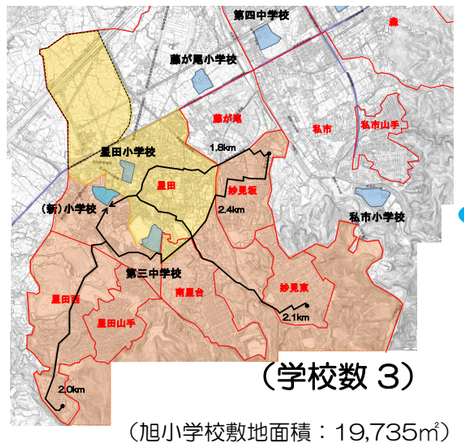
デメリット

・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.6km）
（星田4丁目や星田6丁目などの地域では、すぐ近くにある星田小学校を通過しての通学となる。）

・他の小学校区をまたいでの、または、迂回しての通学となる地域がある。

学校統合案（13）

妙小・旭小を統合し、
旭小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（旭小学校敷地面積：19,735㎡）

メリット

・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。
（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）

・旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地（1,322㎡）を活用することで敷地面積が大きくなる。

デメリット

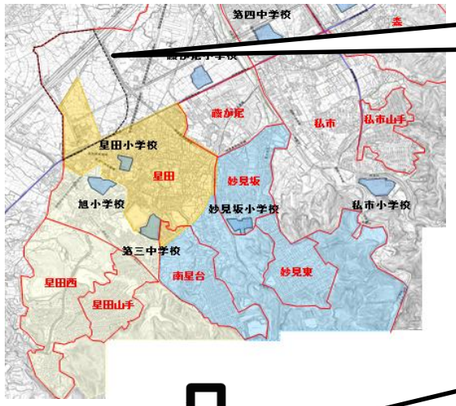
・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.4km）
（星田4丁目や星田6丁目などの地域では、すぐ近くにある星田小学校を通過しての通学となる。）

・他の小学校区をまたいでの、または、迂回しての通学となる地域がある。

第三中学校区の適正配置案（12）

◆　星田駅北全体⇒ 星田小学校区（2）

現況校区図　　（学校数 4）



星田北全体（黒破線内の区域）では、689戸程度の住宅開発が予定されている。

星田北7丁目の住宅開発の影響で、適正規模で推移する見込み

～第三中学校区の課題～

星田小学校

~~将来的に小規模化する見込みである。~~

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

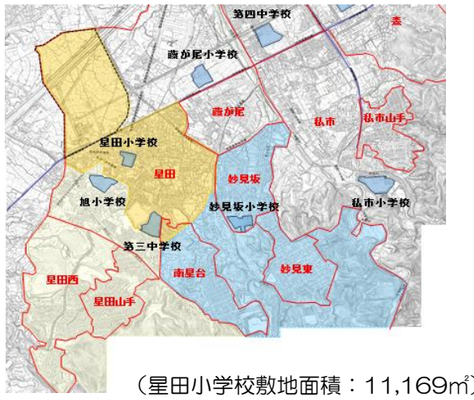
旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。

星田駅北地域は星田小学校区とし、星田小学校の増床工事を実施

（学校数 4）



（星田小学校敷地面積：11,169㎡）

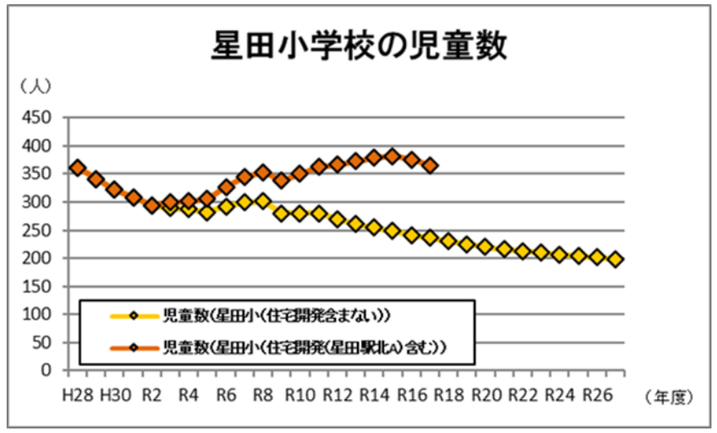
メリット

・将来的な星田小学校の小規模化が解消される。

デメリット

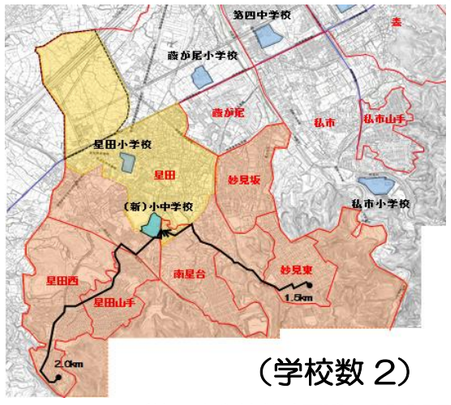
・星田小学校は敷地面積が11,169㎡、屋外運動場面積が7,152㎡と狭い。推計上最大の約700人規模となるような増床は困難である。

・中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。



小中学校統合案(5)

妙小・旭小・三中を統合し、三中敷地に新しい小中学校を設置した場合



（学校数 2）

（第三中学校敷地面積：23,095㎡）

メリット

・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）

・第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

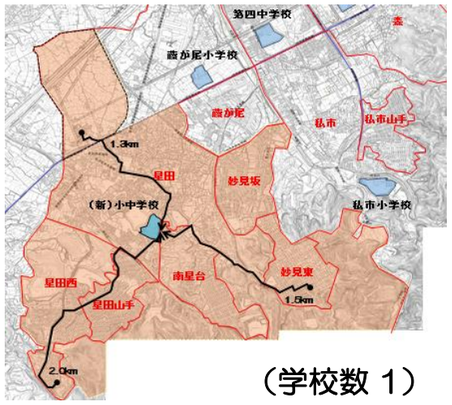
デメリット

・通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）

・小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に教育機会等の不均衡が生じるおそれがある。

小中学校統合案(6)

星小・妙小・旭小・三中を統合し、三中敷地に新しい小中学校を設置した場合



（学校数 1）

（第三中学校敷地面積：23,095㎡）

メリット

・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。

・第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

・小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。

デメリット

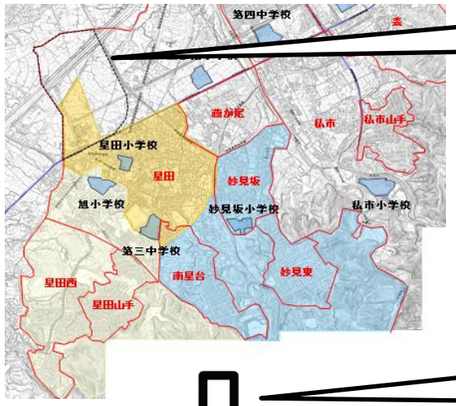
・（新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

・通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）

第三中学校区の適正配置案（13）

◆　星田駅北全体⇒ 旭小学校区（1）

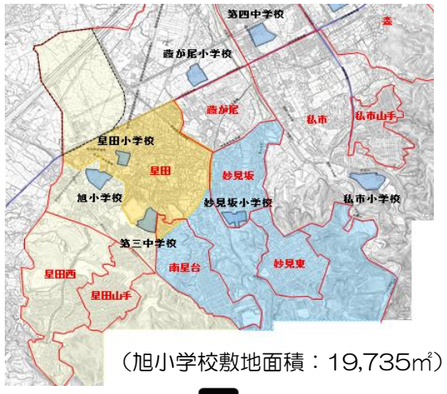
現況校区図　　（学校数 4）



星田北全体（黒破線内の区域）では、
689戸程度の住宅開発が予定されている。

星田駅北地域は旭小学校区とし、
旭小学校の増床工事を実施

（学校数 4）



（旭小学校敷地面積：19,735㎡）

メリット

- 将来的な旭小学校の小規模化のおそれがなくなる。
- 旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地（1,322㎡）を活用することで敷地面積が大きくなる。
- 推計上最大の約700人規模となるような増床は可能である。

デメリット

- 星田駅北から旭小学校へは、星田小学校区をまたいでの通学となる。
- 中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。
- 星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

～第三中学校区の課題～

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

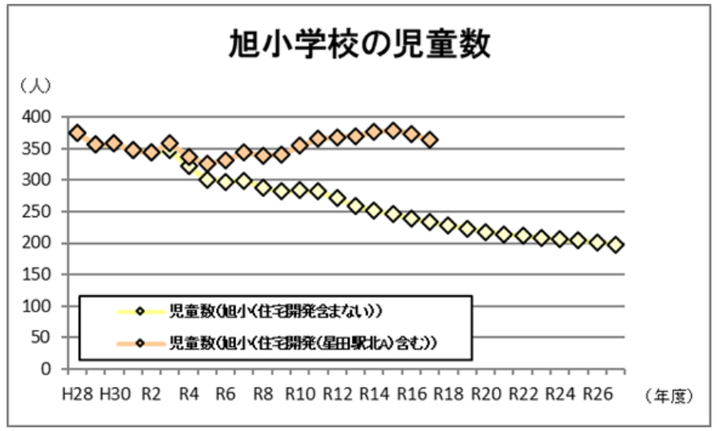
妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

旭小学校

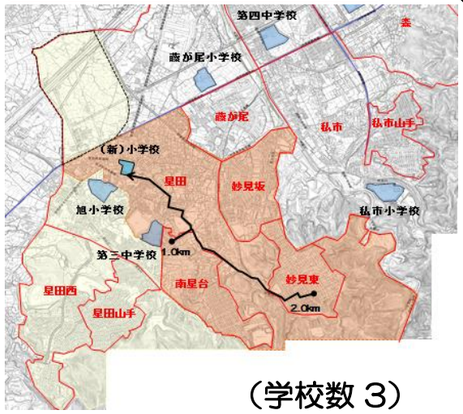
将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。



学校統合案（14）

星小・妙小を統合し、
星小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（星田小学校敷地面積：11,169㎡）

メリット

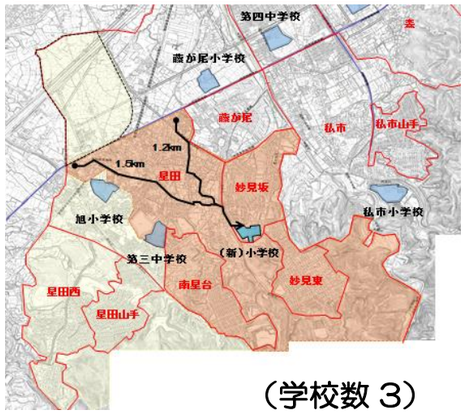
- 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）

デメリット

- 星田小学校敷地は敷地面積が小さい。
- 通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）
- 他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。

学校統合案（15）

星小・妙小を統合し、
妙小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（妙見坂小学校敷地面積：25,271㎡
うち、3,341㎡は実験実習地）

メリット

- 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）
- 妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

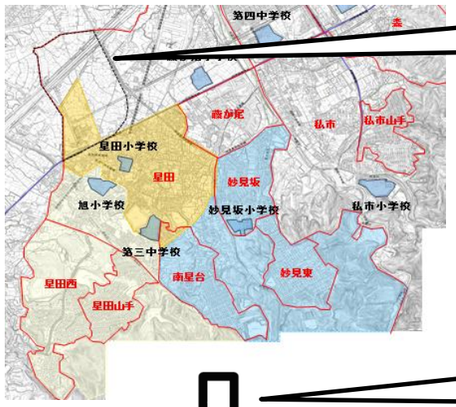
デメリット

- 通学距離が延びる地域がある。（最長約1.5km）
（星田5丁目などの地域では、すぐ近くにある旭小学校を通過しての通学になる。）
- 他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。

第三中学校区の適正配置案（14）

◆　星田駅北全体⇒ 旭小学校区（2）

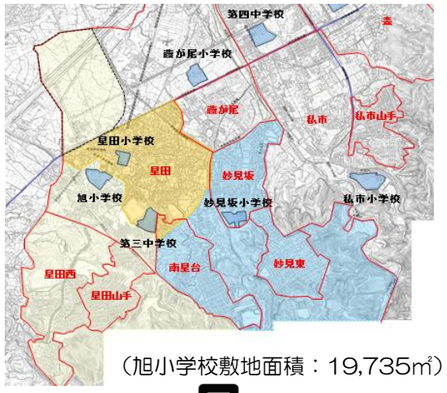
現況校区図　　（学校数 4）



星田北全体（黒破線内の区域）では、
689戸程度の住宅開発が予定されている。

星田駅北地域は旭小学校区とし、
旭小学校の増床工事を実施

（学校数 4）



（旭小学校敷地面積：19,735㎡）

メリット

- 将来的な旭小学校の小規模化のおそれがなくなる。
- 旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地（1,322㎡）を活用することで敷地面積が大きくなる。
- 推計上最大の約700人規模となるような増床は可能である。

デメリット

- 星田駅北から旭小学校へは、星田小学校区をまたいでの通学となる。
- 中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。
- 星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

～第三中学校区の課題～

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

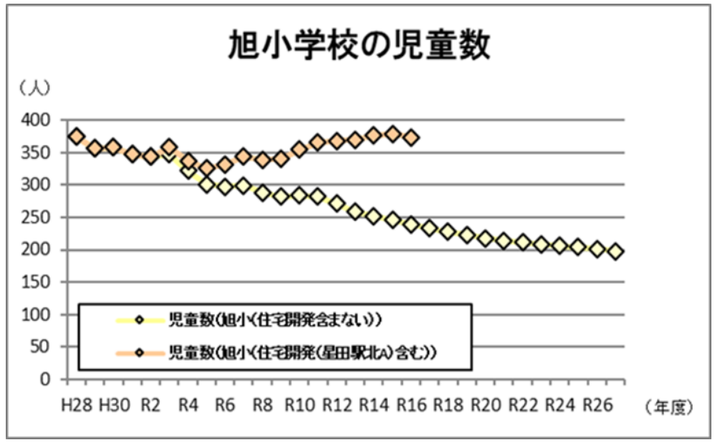
妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

旭小学校

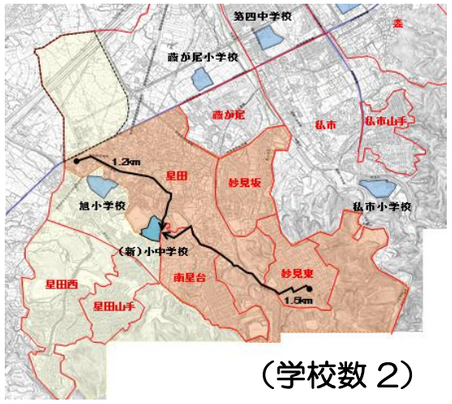
将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。



小中学校統合案(7)

星小・妙小・三中を統合し、
三中敷地に新しい小中学校を設置した場合



（学校数 2）

（第三中学校敷地面積：23,095㎡）

メリット

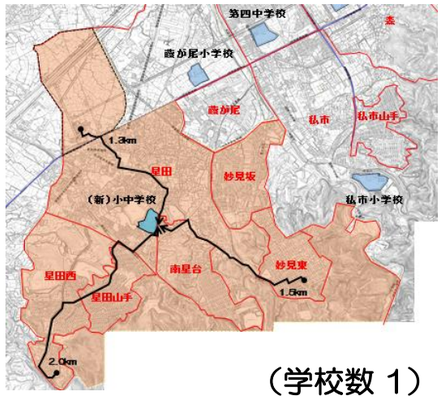
- 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）
- 第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

デメリット

- 通学距離が延びる地域がある。（最長約1.5km）
- 小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に教育機会等の不均等が生じるおそれがある。

小中学校統合案(6)

星小・妙小・旭小・三中を統合し、
三中敷地に新しい小中学校を設置した場合



（学校数 1）

（第三中学校敷地面積：23,095㎡）

メリット

- 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。
- 第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。
- 小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。

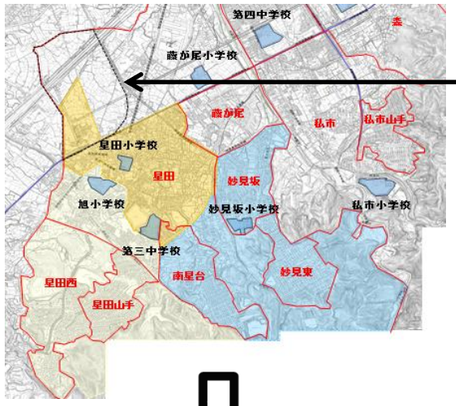
デメリット

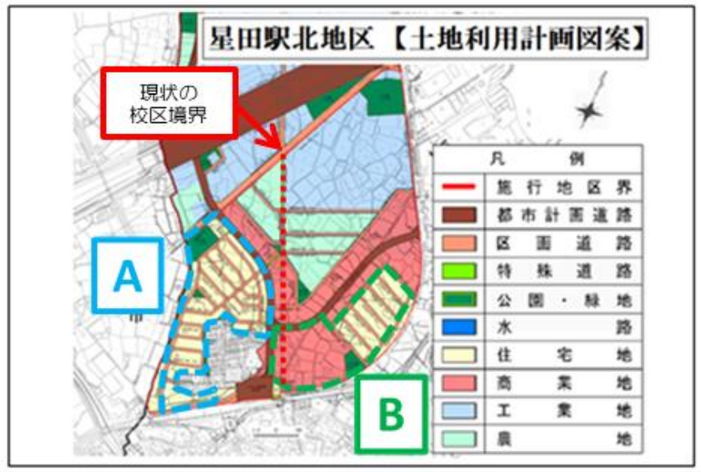
- （新）小学校で適正規模を上回る見込みである。
- 通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）

第三中学校区の適正配置案（15）

◆　星田駅北全体⇒星田小学校区・ 旭小学校区（1）

現況校区図　　（学校数 4）





～住宅戸数～

（A）戸建住宅　162戸
（B）戸建住宅　138戸、共同住宅　389戸

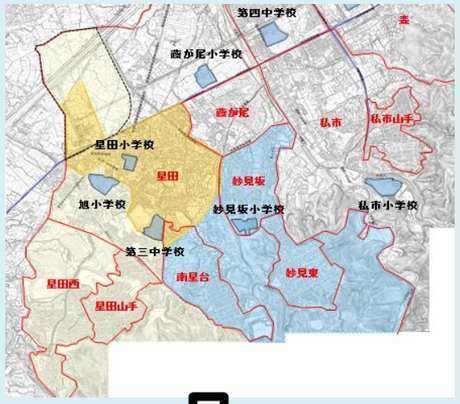
星田駅北全体を第三中学校区とする場合で、当該地域を星田小学校区と旭小学校区に分ける場合、下の1）2）の場合が考えられる。

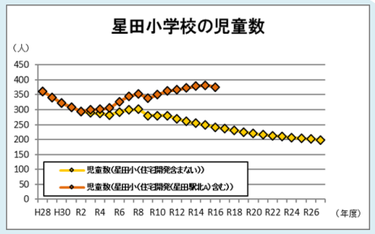
1）（A）⇒　星田小学校区
　　（B）⇒　旭小学校区

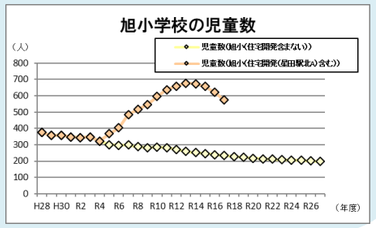
2）（A）⇒　旭小学校区
　　（B）⇒　星田小学校区

※　（A）（B）以外の区域については、住居以外の用途となる見込み

1）







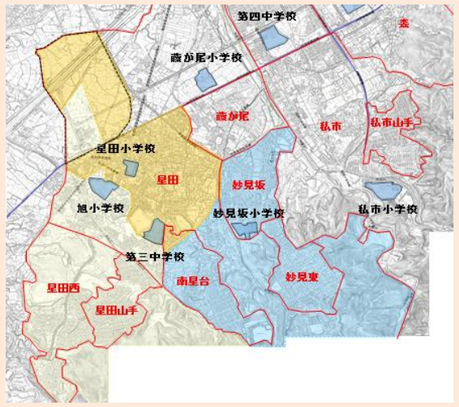
1）の場合、星田小学校、旭小学校の小規模化の課題は解消される。
※2）の場合も同様

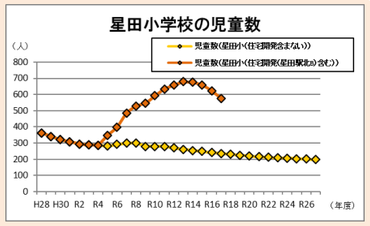
⇩

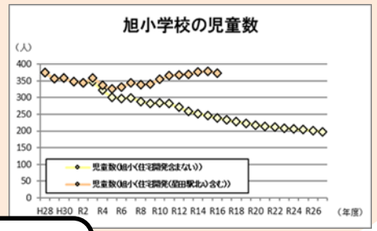
この場合、第三中学校区として残る課題は、妙見坂小学校の小規模化及び各学校施設の老朽化となる。

※1）と2）で大きく児童数が異なることはないため（Bの方が若干児童数が多くなる見込み）、以下、1）の図にて検討するものとする。

【参考】　2）の場合

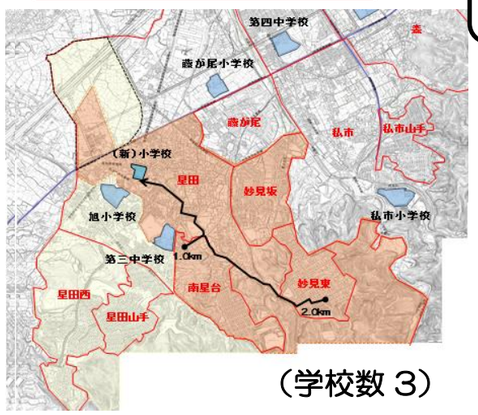






学校統合案（16）

星小・妙小を統合し、
星小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（星田小学校敷地面積：11,169㎡）

メリット

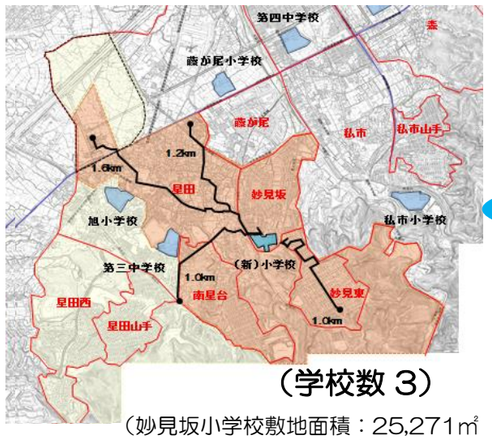
- 将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 星田小学校敷地は敷地面積が小さい。
- 通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）
- 他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。

学校統合案（17）

星小・妙小を統合し、
妙小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（妙見坂小学校敷地面積：25,271㎡
うち、3,341㎡は実験実習地）

メリット

- 将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。
- 妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

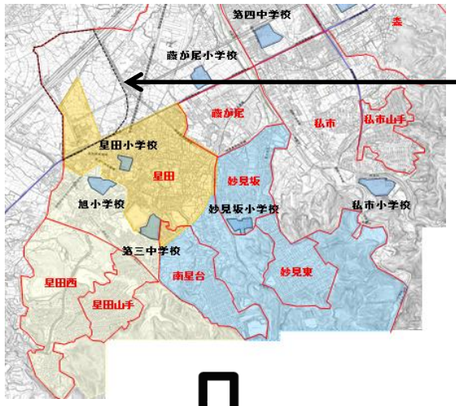
デメリット

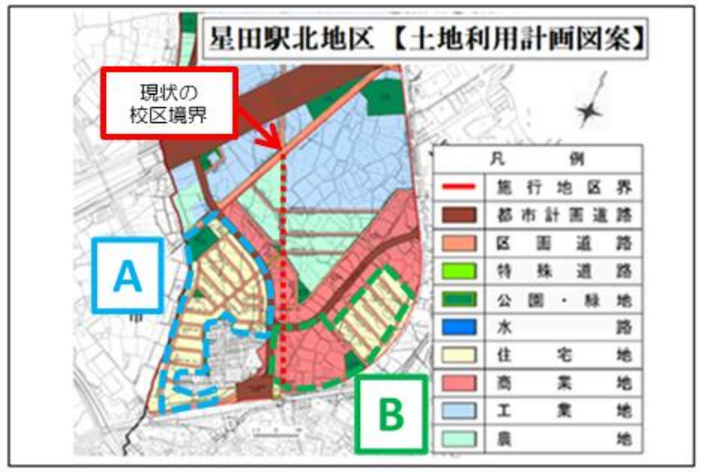
- 通学距離が延びる地域がある。（最長約1.6km）
　（星田5丁目や星田北7丁目などの地域では、すぐ近くにある旭小学校を通過しての通学となる。）
- 他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。

第三中学校区の適正配置案（16）

◆　星田駅北全体⇒星田小学校区・ 旭小学校区（2）

現況校区図　　（学校数 4）





～住宅戸数～

（A）戸建住宅　162戸
（B）戸建住宅　138戸、共同住宅　389戸

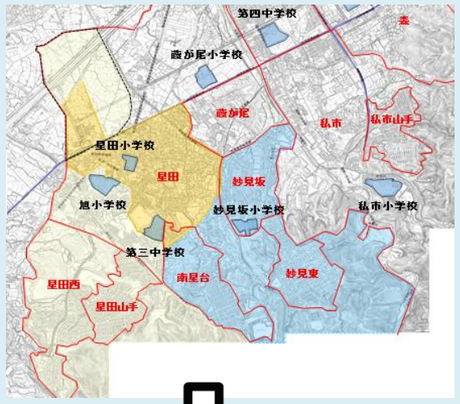
星田駅北全体を第三中学校区とする場合で、当該地域を星田小学校区と旭小学校区に分ける場合、下の1）2）の場合が考えられる。

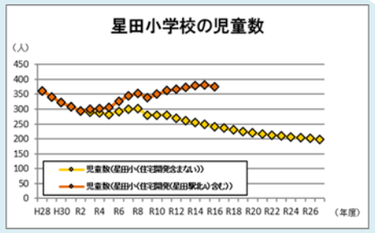
1）（A）⇒　星田小学校区
　　（B）⇒　旭小学校区

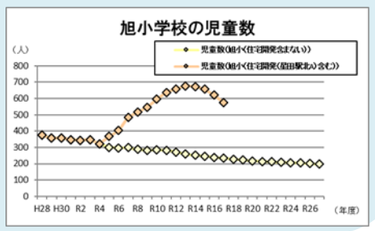
2）（A）⇒　旭小学校区
　　（B）⇒　星田小学校区

※　（A）（B）以外の区域については、住居以外の用途となる見込み

1）







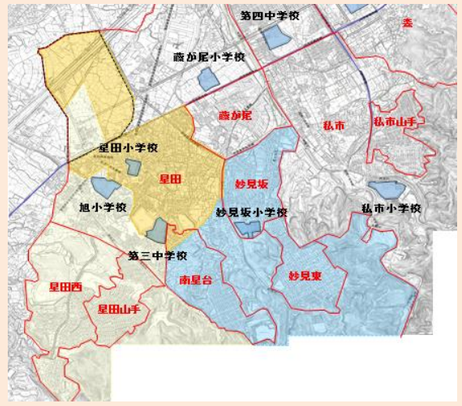
1）の場合、星田小学校、旭小学校の小規模化の課題は解消される。
※2）の場合も同様

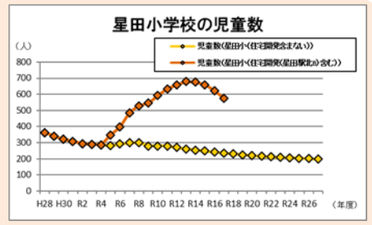
⇩

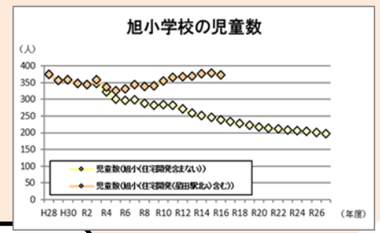
この場合、第三中学校区として残る課題は、妙見坂小学校の小規模化及び各学校施設の老朽化となる。

※1）と2）で大きく児童数が異なることはないため（Bの方が若干児童数が多くなる見込み）、以下、1）の図にて検討するものとする。

【参考】　2）の場合

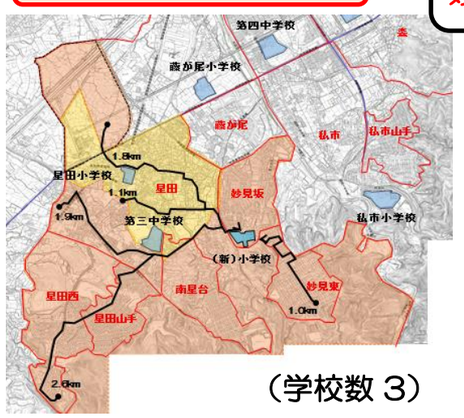






学校統合案（18）

妙小・旭小を統合し、
妙小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（妙見坂小学校敷地面積：25,271㎡
うち、3,341㎡は実験実習地）

メリット

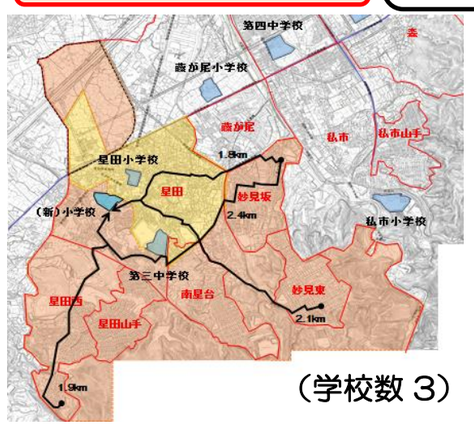
- 将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。
（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）
- 妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.6km）
（星田4丁目や星田6丁目などの地域では、すぐ近くにある星田小学校を通過しての通学となる。）
- 他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。

学校統合案（19）

妙小・旭小を統合し、
旭小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（旭小学校敷地面積：19,735㎡）

メリット

- 将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。
（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）
- 旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地（1,322㎡）を活用することで敷地面積が大きくなる。

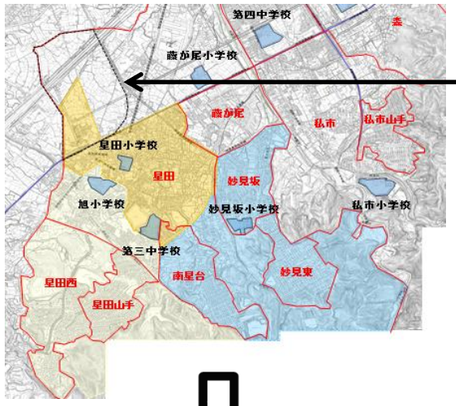
デメリット

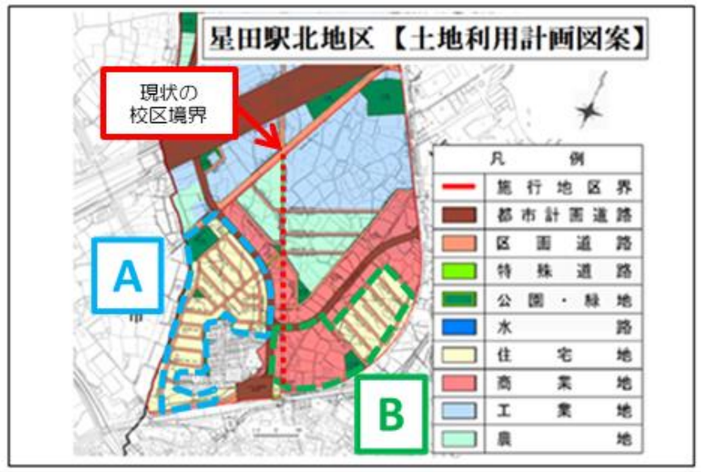
- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.4km）
- 他の小学校区をまたいで、または、迂回しての通学となる地域がある。

第三中学校区の適正配置案（17）

◆　星田駅北全体⇒星田小学校区・ 旭小学校区（3）

現況校区図　　（学校数 4）





～住宅戸数～

（A）戸建住宅　162戸
（B）戸建住宅　138戸、共同住宅　389戸

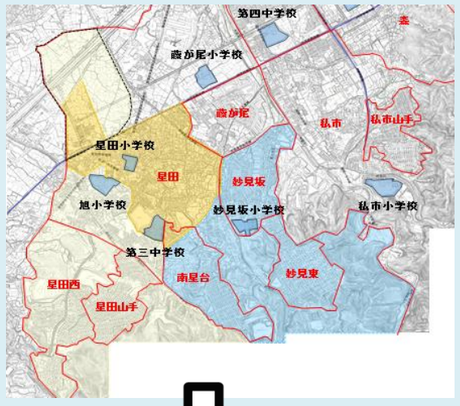
星田駅北全体を第三中学校区とする場合で、当該地域を星田小学校区と旭小学校区に分ける場合、下の1）2）の場合が考えられる。

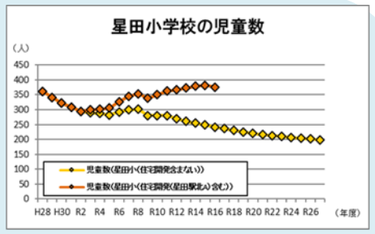
1）（A）⇒　星田小学校区
　　（B）⇒　旭小学校区

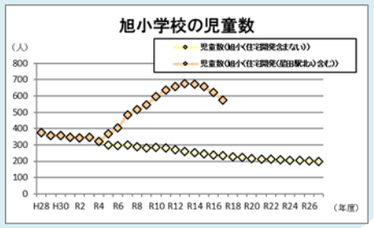
2）（A）⇒　旭小学校区
　　（B）⇒　星田小学校区

※　（A）（B）以外の区域については、住居以外の用途となる見込み

1）





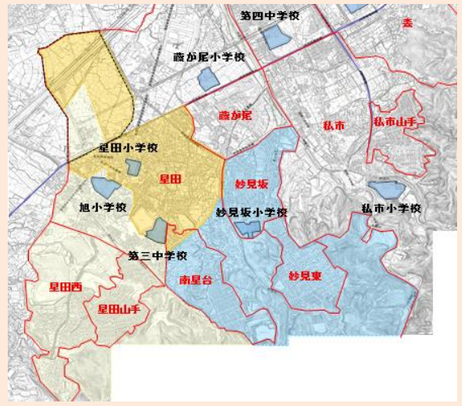


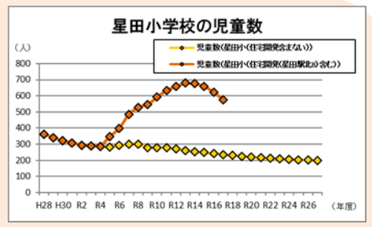
1）の場合、星田小学校、旭小学校の小規模化の課題は解消される。
※2）の場合も同様

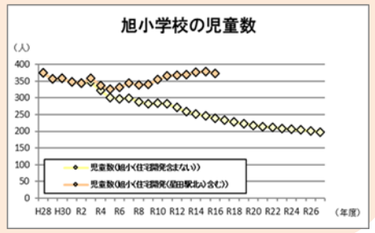
この場合、第三中学校区として残る課題は、妙見坂小学校の小規模化及び各学校施設の老朽化となる。

※1）と2）で大きく児童数が異なることはないため（Bの方が若干児童数が多くなる見込み）、以下、1）の図にて検討するものとする。

【参考】　2）の場合

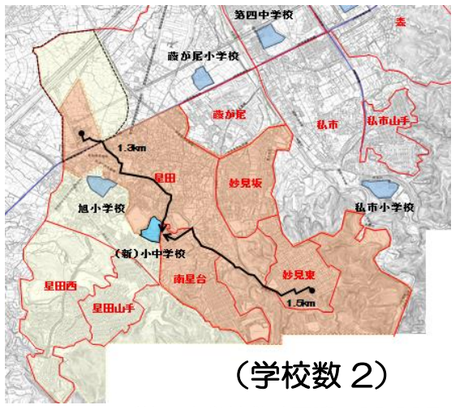






小中学校統合案（8）

星小・妙小・三中を統合し、
三中敷地に新しい小中学校を設置した場合



（学校数 2）

（第三中学校敷地面積：23,095㎡）

メリット

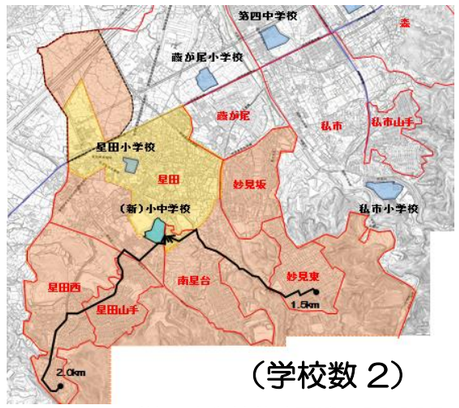
- 将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。
- 第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

デメリット

- 通学距離が延びる地域がある。（最長約1.5km）
（星田５丁目や星田北7丁目などの地域では、すぐ近くにある星田小学校を通過しての通学となる。）
- 小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に教育機会等の不均等が生じるおそれがある。
- 他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。

小中学校統合案（9）

妙小・旭小・三中を統合し、
三中敷地に新しい小中学校を設置した場合



（学校数 2）

（第三中学校敷地面積：23,095㎡）

メリット

- 将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。
（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）
- 第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

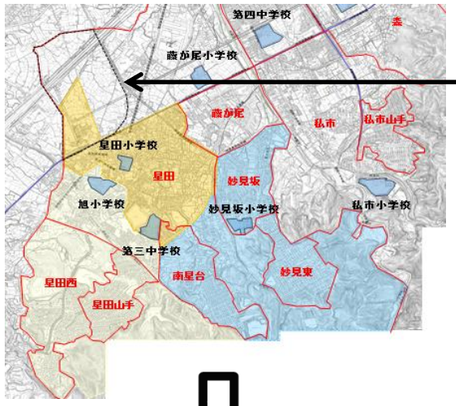
デメリット

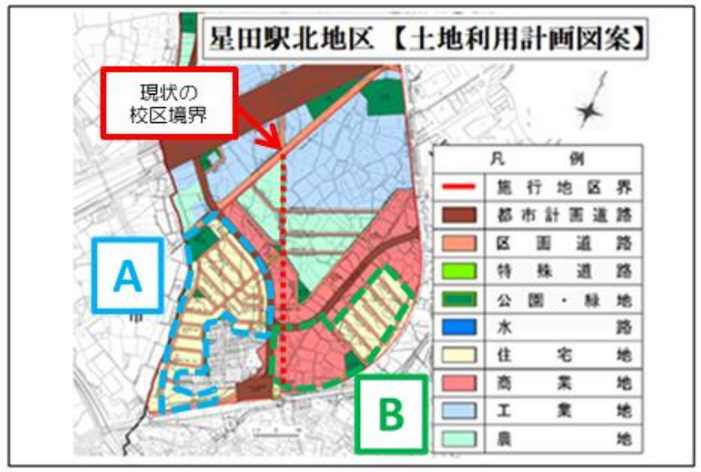
- 通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）
（星田北6丁目などの地域では、すぐ近くにある星田小学校を通過しての通学となる。）
- 小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に教育機会等の不均等が生じるおそれがある。
- 他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。

第三中学校区の適正配置案（18）

◆　星田駅北全体⇒星田小学校区・ 旭小学校区（4）

現況校区図　　（学校数 4）





～住宅戸数～

（A）戸建住宅　162戸
（B）戸建住宅　138戸、共同住宅　389戸

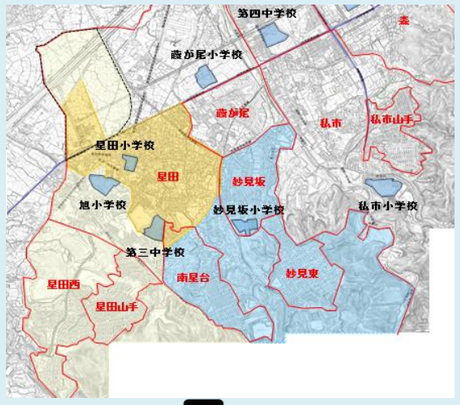
星田駅北全体を第三中学校区とする場合で、当該地域を星田小学校区と旭小学校区に分ける場合、下の1）2）の場合が考えられる。

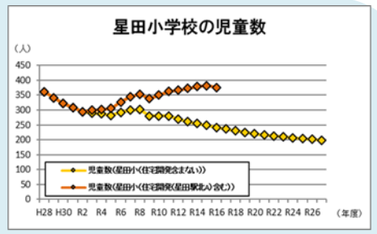
1）（A）⇒　星田小学校区
　　（B）⇒　旭小学校区

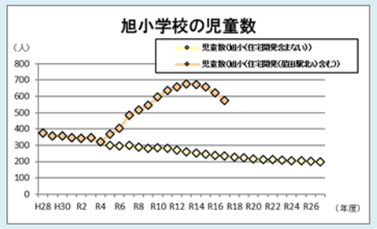
2）（A）⇒　旭小学校区
　　（B）⇒　星田小学校区

※　（A）（B）以外の区域については、住居以外の用途となる見込み

1）







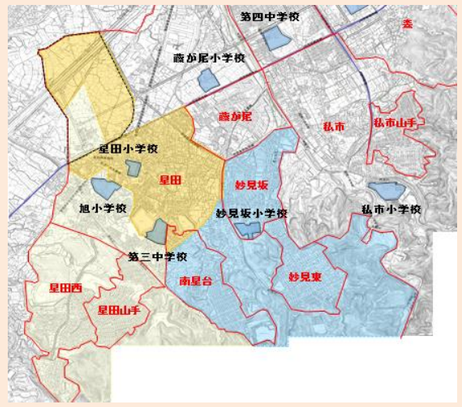
1）の場合、星田小学校、旭小学校の小規模化の課題は解消される。
※2）の場合も同様

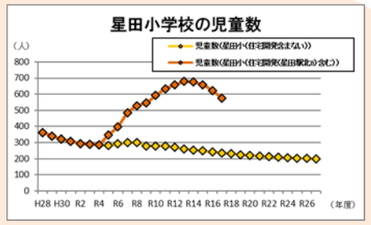
⇩

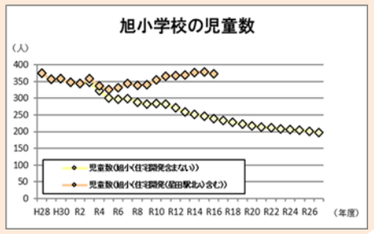
この場合、第三中学校区として残る課題は、妙見坂小学校の小規模化及び各学校施設の老朽化となる。

※1）と2）で大きく児童数が異なることはないため（Bの方が若干児童数が多くなる見込み）、以下、1）の図にて検討するものとする。

【参考】　2）の場合

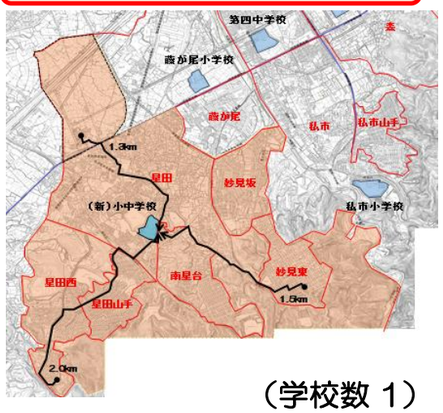






小中学校統合案（6）

星小・妙小・旭小・三中を統合し、
三中敷地に新しい小中学校を設置した場合



（学校数 1）

（第三中学校敷地面積：23,095㎡）

メリット

- 将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。
- 第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。
- 小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。

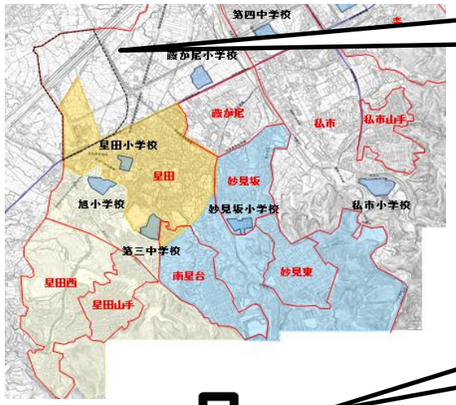
デメリット

- （新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。
- 通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）

第三中学校区の適正配置案（19）

◆　星田駅北⇒ 第四中学校区（1）

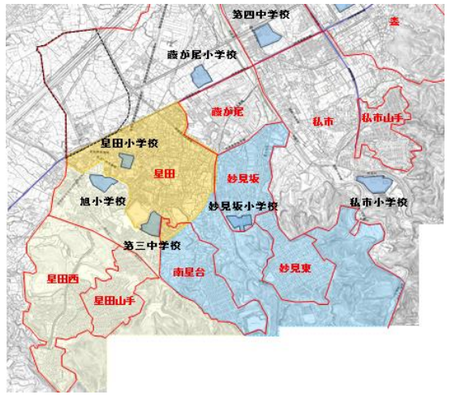
現況校区図　　（学校数 4）



星田北全体（黒破線内の区域）では、
689戸程度の住宅開発が予定されている。

星田駅北を第四中学校区とした場合

（学校数 4）



メリット

・藤が尾小学校が将来的にも適正規模で推移する見込みとなる。（第四中学校区）

デメリット

・中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。（星田北7丁目）
・校区変更により通学距離が延びる地区がある。
・星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

～第三中学校区の課題～

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

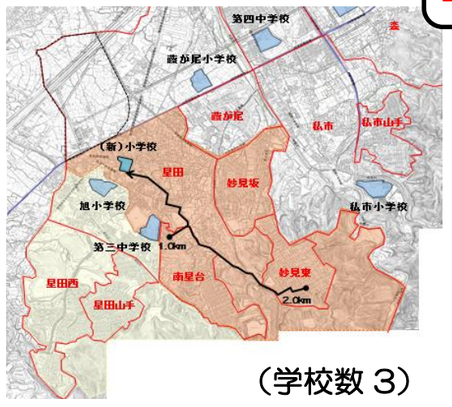
旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。

学校統合案（20）

星小・妙小を統合し、
星小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（星田小学校敷地面積：11,169㎡）

メリット

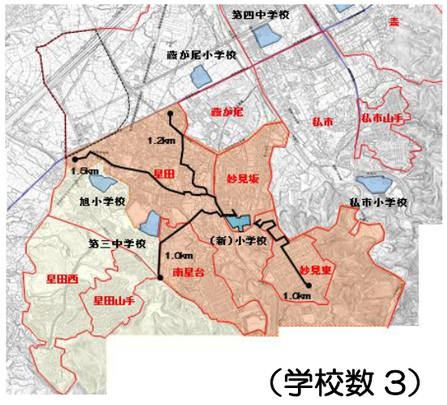
・将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。

デメリット

・星田小学校敷地は敷地面積が小さい。
・通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）
・将来的に旭小学校が小規模化する見込みである。

学校統合案（21）

星小・妙小を統合し、
妙小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（妙見坂小学校敷地面積：25,271㎡
うち、3,341㎡は実験実習地）

メリット

・将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。
・妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

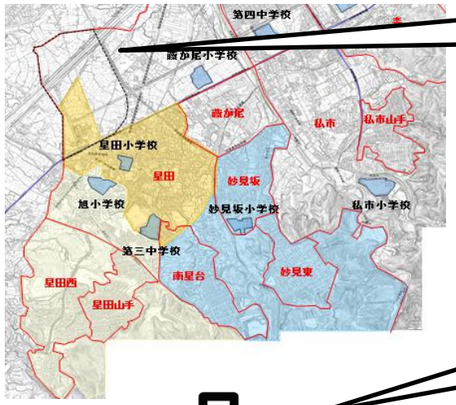
デメリット

・通学距離が延びる地域がある。（最長約1.5km）
（星田5丁目などの一部の地区では、すぐ近くにある旭小学校を通過しての通学になる。）
・将来的に旭小学校が小規模化する見込みである。

第三中学校区の適正配置案（20）

◆　星田駅北⇒ 第四中学校区（2）

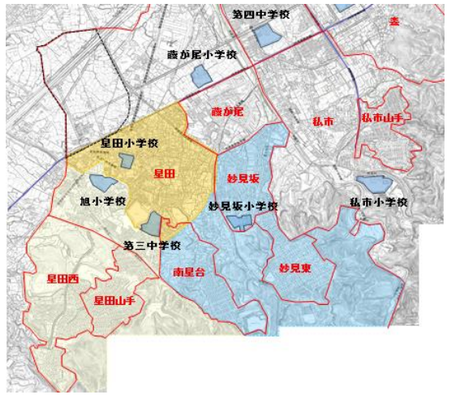
現況校区図　　（学校数 4）



星田北全体（黒破線内の区域）では、
689戸程度の住宅開発が予定されている。

星田駅北を第四中学校区とした場合

（学校数 4）



メリット

- 藤が尾小学校が将来的にも適正規模で推移する見込みとなる。（第四中学校区）

デメリット

- 中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。（星田北7丁目）
- 校区変更により通学距離が延びる地区がある。
- 星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

～第三中学校区の課題～

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

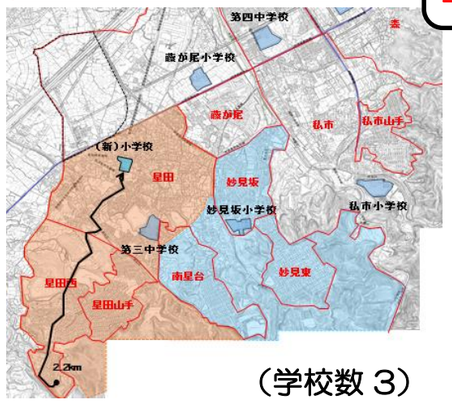
旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。

学校統合案（22）

星小・旭小を統合し、
星小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（星田小学校敷地面積：11,169㎡）

メリット

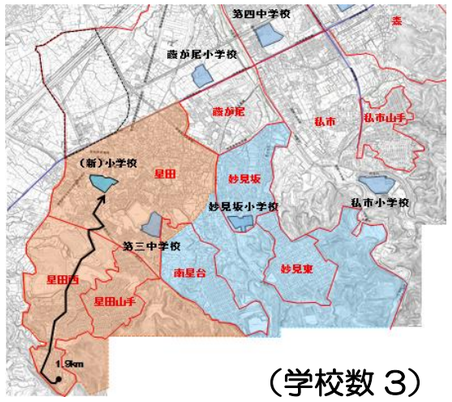
- 将来的な星田小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。
- 改修した星田小学校施設の使用が可能となる。
- 学校間の距離が近接しているため、通学距離が大きく延びる地域がない。（最長約2.2km）

デメリット

- 星田小学校敷地は敷地面積が小さい。
- 将来的に妙見坂小学校が小規模化する見込みである。

学校統合案（23）

星小・旭小を統合し、
旭小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 3）

（旭小学校敷地面積：19,735㎡）

メリット

- 将来的な星田小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。
- 妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。
- 学校間の距離が近接しているため、通学距離が大きく延びる地域がない。（最長約1.9km）

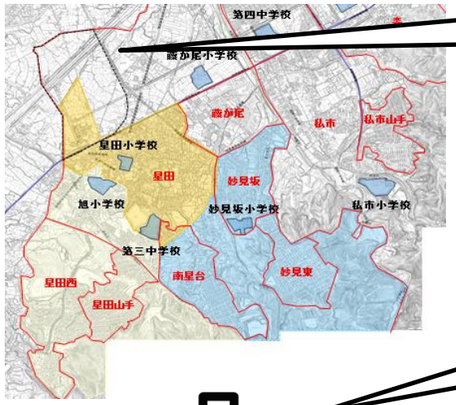
デメリット

- 将来的に妙見坂小学校が小規模化する見込みである。

第三中学校区の適正配置案（21）

◆　星田駅北⇒ 第四中学校区（3）

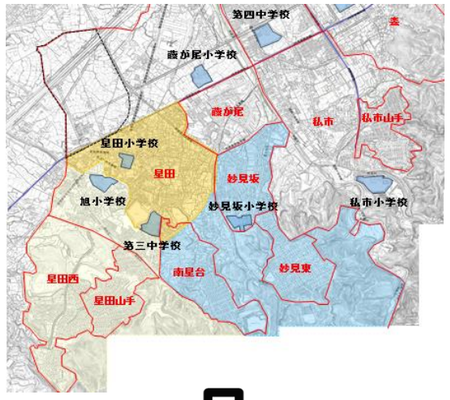
現況校区図　　（学校数 4）



星田北全体（黒破線内の区域）では、
689戸程度の住宅開発が予定されている。

星田駅北を第四中学校区とした場合

（学校数 4）



メリット

・藤が尾小学校が将来的にも適正規模で推移する見込みとなる。（第四中学校区）

デメリット

・中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。（星田北7丁目）

・校区変更により通学距離が延びる地区がある。

・星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

～第三中学校区の課題～

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

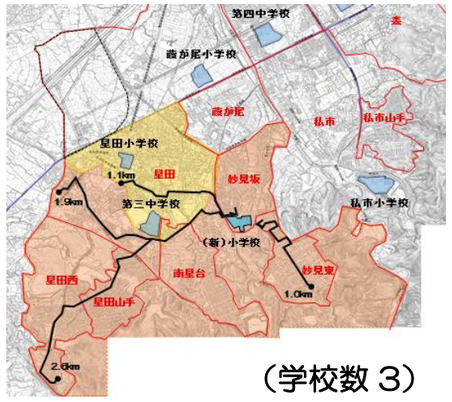
旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。

妙小・旭小を統合し、
妙小敷地に新しい小学校を設置した場合

学校統合案（24）



（学校数 3）

（妙見坂小学校敷地面積：25,271㎡
うち、3,341㎡は実験実習地）

メリット

・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）

・妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

デメリット

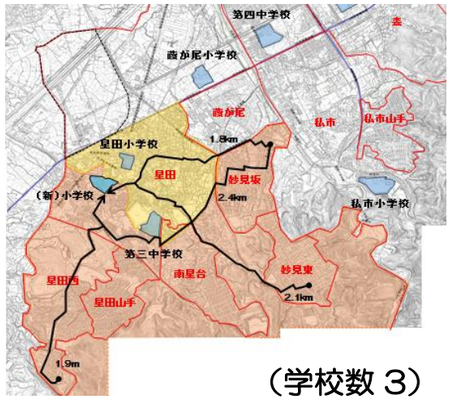
・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.6km）（星田4丁目や星田6丁目などの地域では、すぐ近くにある星田小学校を通過しての通学となる。）

・他の小学校区をまたいでの、または、迂回しての通学となる地域がある。

・将来的に星田小学校が小規模化する見込みである。

妙小・旭小を統合し、
旭小敷地に新しい小学校を設置した場合

学校統合案（25）



（学校数 3）

（旭小学校敷地面積：19,735㎡）

メリット

・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）

・旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地（1,322㎡）を活用することで敷地面積が大きくなる。

デメリット

・通学距離が2km程度になる地域がある。（最長約2.4km）

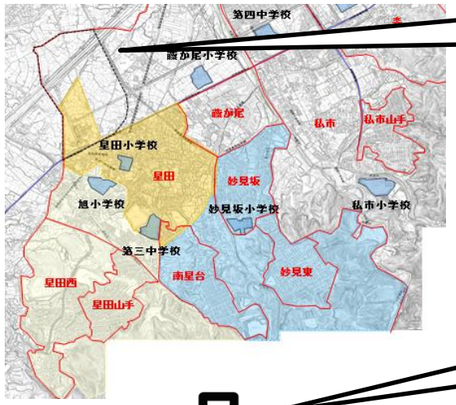
・他の小学校区をまたいでの、または、迂回しての通学となる地域がある。

・将来的に星田小学校が小規模化する見込みである。

第三中学校区の適正配置案（22）

◆　星田駅北⇒ 第四中学校区（4）

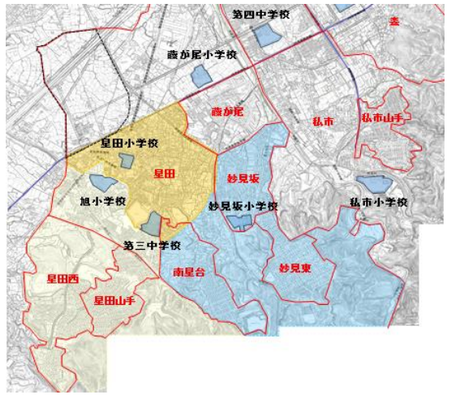
現況校区図　　（学校数 4）



星田北全体（黒破線内の区域）では、
689戸程度の住宅開発が予定されている。

星田駅北は第四中学校区に校区変更した場合

（学校数 4）



メリット

- 藤が尾小学校が将来的にも適正規模で推移する見込みとなる。（第四中学校区）

デメリット

- 中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。（星田北７丁目）
- 校区変更により通学距離が延びる地区がある。
- 星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

～第三中学校区の課題～

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

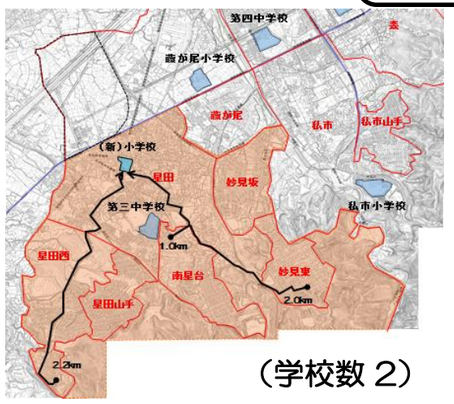
旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。

学校統合案（26）

星小・妙小・旭小を統合し、
星小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 2）

（星田小学校敷地面積：11,169㎡）

メリット

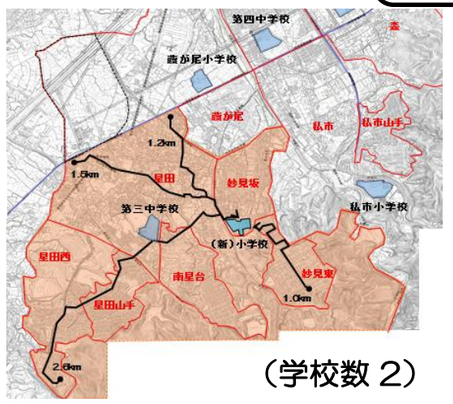
- 将来的な星田小学校、妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.2km）
- 星田小学校敷地は敷地面積が小さい。
- （新）小学校で適正規模を上回る見込みである。

学校統合案（27）

星小・妙小・旭小を統合し、
妙小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 2）

（妙見坂小学校敷地面積：25,271㎡
うち、3,341㎡は実験実習地）

メリット

- 将来的な星田小学校、妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。
- 妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

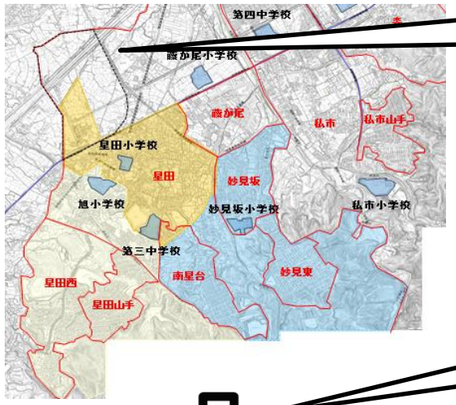
デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.6km）
- （新）小学校で適正規模を上回る見込み。

第三中学校区の適正配置案（23）

◆　星田駅北⇒ 第四中学校区（5）

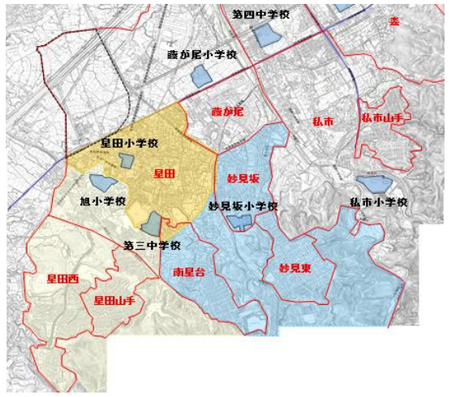
現況校区図　　（学校数 4）



星田北全体（黒破線内の区域）では、
689戸程度の住宅開発が予定されている。

星田駅北は第四中学校区に校区変更した場合

（学校数 4）



メリット

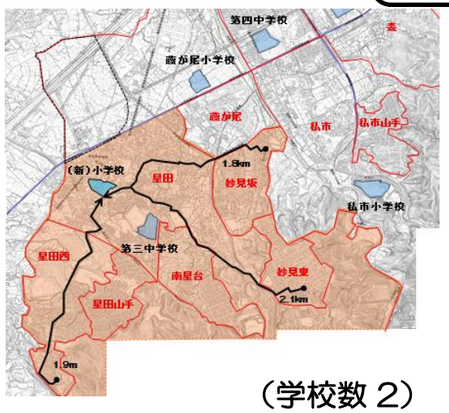
・藤が尾小学校が将来的にも適正規模で推移する見込みとなる。（第四中学校区）

デメリット

・中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。
・校区変更により通学距離が延びる地区がある。
・星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

学校統合案（28）

星小・妙小・旭小を統合し、
旭小敷地に新しい小学校を設置した場合



（学校数 2）

（旭小学校敷地面積：19,735㎡）

メリット

・将来的な星田小学校、妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。

・旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地（1,322㎡）
を活用することで敷地面積が大きくなる。

デメリット

・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.1km）
・（新）小学校で適正規模を上回る見込み。

～第三中学校区の課題～

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

旭小学校

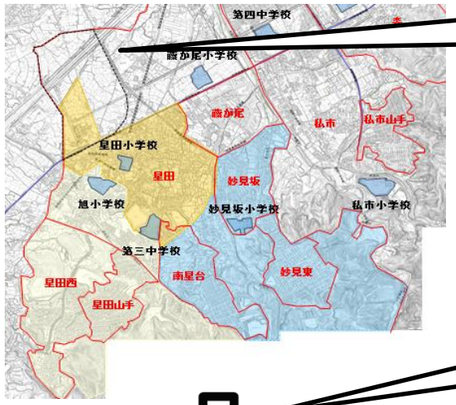
将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。

第三中学校区の適正配置案（24）

◆　星田駅北⇒ 第四中学校区（6）

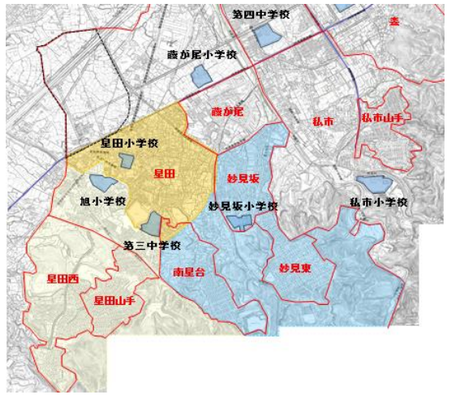
現況校区図　　（学校数 4）



星田北全体（黒破線内の区域）では、
689戸程度の住宅開発が予定されている。

星田駅北は第四中学校区に校区変更した場合

（学校数 4）



メリット

・藤が尾小学校が将来的にも適正規模で推移する見込みとなる。（第四中学校区）

デメリット

・中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。
・校区変更により通学距離が延びる地区がある。
・星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

～第三中学校区の課題～

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

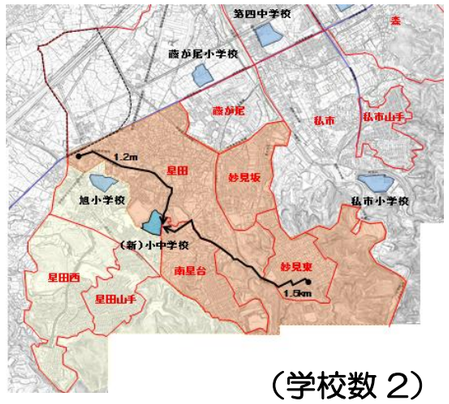
旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が進んでいる。

小中学校統合案（10）

星小・妙小・三中を統合し、
三中敷地に新しい小中学校を設置した場合



（学校数 2）

（第三中学校敷地面積：23,095㎡）

メリット

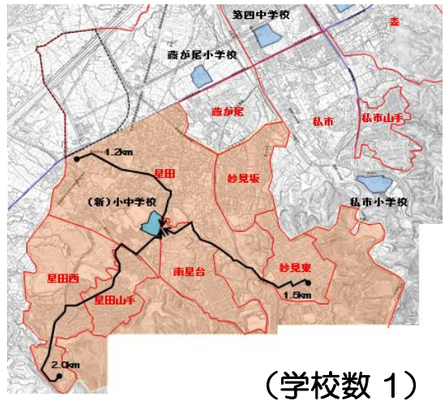
・将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。
（第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。）
・第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

デメリット

・通学距離が延びる地域がある。（最長約1.5km）
・小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に教育機会等の不均等が生じるおそれがある。
・将来的に旭小学校が小規模化する見込みである。

小中学校統合案（11）

星小・妙小・旭小・三中を統合し、
三中敷地に新しい小中学校を設置した場合



（学校数 1）

（第三中学校敷地面積：23,095㎡）

メリット

・将来的な星田小学校、妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。
・第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。
・小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。

デメリット

・（新）小学校で適正規模を上回る見込み。
・通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）